

明治二十九年十月七日印刷
明治二十九年十月十日發行
明治二十九年十一月一日再版發行

定價金三圓



版權
所有

編者 大和田建樹

發行者 大橋新太郎

東京市日本橋區本町三丁目八番地

印刷者 野村宗十郎

東京市京橋區築地三丁目十五番地

印刷所 株式會社 東京築地活版製造所

東京市京橋區築地二丁目十七番地

發兌元

東京市日本橋區
本町三丁目

博文館

石川鴻齋先生修纂

音韻釋 康熙字典

全部四十卷
合本全六册
銅刻和紙刷
雅裝絹表紙

正價 桐函入 正價金四圓卅錢 通運參拾錢
〔帙〕入 正價金四圓 郵稅五拾四錢

康熙年間、清廷始めて字典を選び、凡そ玉篇、字彙、字鑑、正字通、廣韻篇海等の外、名山古廟に藏する所、塞外邊地に用る所、竹簡、漆書、鼎彝、墓碣の刻文まで、盡く網羅し、大學士諸儒三十名の編纂に依る、宇宙間字書の精密なる、斯書を以て冠冕と爲す。後又屢改刻して、往々誤謬を爲す者あり、本邦享和元文の際、始めて此書を傳へ。當時の書肆翻刻する者、誤を以て誤を傳へ、終に訂正する能はず。是に於て後進をして誤らしめんことを恐れ、多年校讐を經し、悉く之を正す。且つ日本書紀、萬葉集、古言梯、倭名鈔諸書、許多の國書を參考して、音釋を詳かにす。志學の諸君斯編を座傍に備へば、天下讀むべからざるの書無く、識る可からざるの字無かるべし。

岡本 黄石、小野湖山、巖谷一六
日下部 鳴鶴、丁野丹山、栗本 砲庵
岡 鹿門、矢土 錦山、大槻如電
石川鴻齋先生編修 各先生校閱

篆文 日本大玉篇

全部十二卷
合本全參册
銅版和紙刷
雅裝帙入

正價 金貳圓 郵稅貳拾四錢

顧氏玉篇を撰みしより、本邦翻刻する者、家々原文を省略して、字義字音等誤る者少なしとせす。斯編は顧氏の原本を主として、字典、字彙、字貫、正字通等、凡そ天下の字書を盡く網羅し、且つ前清國の大使黎庶昌の藏する所、明人手録の音義を請求して、府下諸大儒の校讐を經、四聲を詳かにし、邦訓を明かにし、務めて先輩の誤謬を訂正し、上欄には、許氏の説文備覽を鈔録して、篆字數牀を掲ぐ。凡そ字書の完備する者、此編に若くものなし。

棚橋廣君編

新撰漢語字引

正價貳拾錢 郵稅四錢

棚橋廣君編

いろいろは新字典

正價金貳拾五錢 郵稅四錢

樞密顧問官正三位佐々木高行君題辭
帝國文科大學教授栗田 寬君序文
大宮宗司先生編

日本辭林

全壹册洋裝
新形頗美本
紙數八百頁
總クローズ

附錄 文典大意 假名遣 冠詞 一覽

正價 〇上製金四拾錢 〇並製金參拾錢 郵稅 一册 八錢
國文學の隆盛につれ、斯學に關する著書の出づ
ると頗る多く、國語の辭書のあらはるゝ、また寡
なからず、而して其多くは皆な何れも大部のも
のなれば、嘗に得るに容易ならざるのみならず、
見るに甚だ不便なり、故に初學者を益する事少
なし、著者深くこれを歎き、大に奮ふて遂に本書
を著されたり。さて此書の體裁たる從來の辭書
に異なる所なしと雖、その解釋を施すや、頗る叮
嚀綿密にして、その説の要領をつくせり。殊に編
首には、文典大意を掲げて文法語法の諸規則を、
示し、また終りには、假名遣と冠詞とを載せて、
歌學者に便す。その注意實に至れりといふべし、
今の世にはこの類の著書少なからず雖も、本書
の如く一切を網羅して、完全せるものはあらず
なり、されば苟も文學に志あるものは、よろ
しく一本を求めて坐右に供すべし。

從二位伯爵 東久世通禧公題辭
佐々木信綱、岡野伊平兩先生著

假名遣・字 枕詞・字典

全壹册洋裝
背皮金字入
印刷頗鮮明

正價 金五拾錢 郵稅 八錢

假名遣は國語を學び、國文を作る人の、第一に知
らざるべからざるものなり。然るを世人動もす
れば、いとかくべきをゐと書き、をとかくべきを
おとかきて、識者の笑を招くは慨歎すべし。然れ
ども一度此を字典見ば、さる誤りもなく、眞正の
國文を作るを得べし。

枕詞は歌文を脩むる人の、朝夕に用ふるものに
して、世人も又常に口に久方の天といひ、足引の
山と言ふといへども、多くは其意義を知るもの
なし。此書は一切の枕詞をあつめ、且つ丁寧綿密
に註解を施したるものなり。

從來假名遣枕詞に關せる書なきにわらずと雖、
本書の如く一切を網羅し完全せる書あることな
し。世の文を作り歌を詠む人は、必ず一本を購ひ
座右を離すべからざるものといふべし。

石川鴻齋先生撰

新撰日本字典

全貳册銅刻
上等和紙刷
雅裝絹表紙
映入頗美本

正價 金八拾錢 郵稅 拾錢

字典玉篇の行れしより、世の字書を刻する者、枚舉するに違ま
あらず、然れども或は繁に過ぎ、或は簡に失し、或は邦訓を詳
かにせず、字義反切等を誤る者少ならず、斯編は數十種の字
書より、世上必用の文字のみを抜出し、四聲反切を詳かにし、多
く邦訓を増加し、熟語及び其出處を掲げ、最も詳密を宗とす、
且つ古文の變體及び字畫の誤れる者は盡く削除し、無用を捨く
有用を取り、紙數を減して提携の便を謀る、凡そ經書歴史及兩
漢以來、諸家の記録する所、文字多數ありと雖、斯編に熟せば
盡く通曉せざるなし、冀くば一部を購求して座右に備へたまは
ば、其益莫大ならん。

淳軒 大田才次郎先生編

新撰明治字典

全壹册銅版
地圖數葉入
上等和裝
金字入美本

正價 金參拾五錢 郵稅 四錢

字彙、康熙字典の浩澗なる、字數に當めると雖、携帶する能は
ざるを如何せん。是に於てや種々の小字典出づ、然れども或は
校訂精密ならず、或は彫刻鮮明ならず、或は簡に過ぎ、或は繁
中に失す、獨り此字典此數繁を一掃して、卷帙尤も小、寸珍字典
中の巨壁とすべし。

石川鴻齋先生校閱 戸田翠香先生纂修

文章字典

全壹册銅刻
上等和紙刷
雅裝絹表紙
映入頗美本

正價 金六拾錢 郵稅 八錢

斯書の用は詩文章を作為するを以て主とす、其用字の字義を
解せざれば安そ圓活流暢の文を作り、以て其意志を達するを得
んや。本書は著者八十年間の苦心を以て、成りしものにして、虚
字助語の類、又た普通の實字に至るまで、網羅收拾亦た遺漏す
るなし。而して毎字妥當なる解釋を施し、問々熟語を挿入し、
用書目を掲げ、以て其用例を知らしむ。凡そ毛筆を以て金玉詩
文を作為し、天性の妙趣を發露するを得るべからざる、至便至
求む可からざるなり。又漢文講讀にも缺くべからざる、
寶の良書と謂ふべし。

大田淳軒先生編撰

新撰歴史字典

全壹册銅刻
上等和紙刷
雅裝絹表紙
映入頗美本

正價 金五拾五錢 郵稅 六錢

科學の盛なる歐米諸國に於ては、夙に専門の字典あり、然るに
我邦未だ歴史字典なきは、實に一大缺典と謂はざるべからず、
淳軒先生之を遺憾とし此編あり、普通用ゆる所の漢字を網羅し、
名乘、證號、御諱、神名、官職、年號、姓氏、人名、地名、熟語の十項
に分ち、之を解釋をなす、史を學ぶものは勿論漢學を講ずる人
は必ず備へざるべからざる寶典なり。

第一高等學校教授落合直文先生
第一高等學校教授小中村義象先生 合著

中等
教育
日本文典

全壹册洋裝
背皮金字入
紙質頗精良
印刷頗鮮明

正價 金六拾錢 郵稅 拾錢

古來往々邦文の不規律にして、統一なきを難するものあるは、主として完全なる文典の書なきに依れり、文を學ぶ者の文典に待つある、猶航海者の羅針盤に依るが如く、はた船舶の機に待つとあるが如し、小中村落合兩先生が國文學に精過せらるゝは、世の夙に知悉する所、今や初學の爲に好書なきを慨し、切瑳研究の餘斯書を著はさる。是より桃花始めて津ありといふべし。殊に著者は多年官私の諸學校に於て、實地教授せられたるものなるを以て、中學校、師範學校、其他高等諸學校教科用書として、尤も適當無比なるものなり。幸ひに愛讀を賜はらんことを。

第一高等學校教授久米幹文先生校閱
帆足正久先生著

假字つかひ早學び

全一册
價拾五錢
郵稅二錢

錦鷄間祇候金井之恭君題辭
大宮宗司、星野三郎兩先生著

日本小文典

全壹册大判
洋裝頗美本
二百卅餘頁

正價 金拾五錢 郵稅 六錢

本書は、著者多年斯學に研究の上、本邦の語格に關する文法書を普く涉獵し、中に就き精を抜き華を摘み、更に獨得の考案を加へ、原則規矩を構成して、始めて完全の小文典を大成せる者なり。

子爵 福羽美靜先生校閱
田中 渙 乎 君 編

假名交文典

全壹册和裝
印刷頗鮮明
紙質頗精良

正價 金 八 錢 郵稅 二 錢

此書は、世の青年の爲に、文法の假名遣を訂さんさて、著はしたるものなり。文章に志すもの、之を坐右に備へば筆下に完全の文を得べし、實に珍重すべき好文典なり。曩きに天皇陛下及皇后陛下へ獻納し、辱くも嘉納せられたる良書也。

大和田建樹先生著書目録 (博文館發行)

和文學史

全壹册洋裝
背皮金字入
正價九拾錢
郵稅拾二錢

此書は論文と作例とを交へ擧げて、面白く日本文學の沿革を叙述せしものなれば、論文だけを文明史の一部分として見るを得べし、作例だけを讀本として用ふるをも得べし、之を教科用書とせば、其程度高きに過ぎず低きに偏せず、其分量簡易に流す冗長に失せずして、最良教科書たるを得べく、之を獨學用書とせば、文學の趣味自然に誘起せられて、知らず識らずの間に、古文今文の別をも學び得らるゝの、最高教師たるを得べし、其他滿卷の新特色あるものは、讀者諸君の味り得て而して後に知る所ならん。

謠曲通解

全部八册
和裝和紙刷
壹册二百頁
頗美本

正價(一)壹册金廿五錢(二)四册金九拾五錢(三)全(一)部八册金壹圓八拾錢(四)郵稅壹册六錢宛
其文は自然其意は隨支にして、神韻の掬すべきは謠曲に在りては、大和田先生の論議なり。世人は謠曲の吟誦すべき者たるを知らず、未だ文學上必讀の價値あるを知らず、謠曲の扇子に伴ふ者たるを知て、文學史中一大待書せらるべき者たるを知らざるなり、先生の此著ある善し之を概するに出づるのみ、此書は現存の謠曲を悉皆網羅して、註解を附し妙處を示すと丁寧反覆而

謠曲通解目次

- 第一卷 首卷 總論 ○歌舞の起原 ○猿樂の起原 ○能の作者 ○明和の改正 ○能の組織 ○能の興味 ○謠の文學上價值 ○通解の由來
- 小町 高砂 田村 東北 道成寺 鶴龜 實盛 熊野 卒都婆
 小町 羽衣 竹生島 景清 班女 小袖 曾我 右近 卍郎
 千手 遊行 柳室 張良 朝長 船野 慶岩 船
 小鹽 小督 大原 御幸 百萬 船野 慶岩 船
 老松 八島 江口 望月 江葉 舟 葛城 知
- 第二卷 三山 熊坂 安達原 成陽宮 忠度 隅田川 鉢木 藤榮
 吳服 花月 白樂天 服法 師七 鬚落 金札
 天鼓 羅生門 下僧 松風 安宅 講待 雨月 經政 求塚
 母 巴 杜若 藤戸 山姥 嵐山 關寺 小町 石橋 加茂
- 第四卷 木曾 養老 敦飯 井筒 關寺 小町 石橋 加茂
 寺 木賊 融 鵜飼 賴武 夕顏 鳥追船 雷電 志賀
 清經 砧 阿漕 大江山 春日 龍神 紙洗 小町 弓八幡 須羽 白
- 第五卷 源氏 供養 錦木 大會 竹雪 姨捨 紙洗 小町 弓八幡 須羽 白
 自然 居士 放生川 生田 敦盛 胡蝶 通小町 當麻 調伏
 曾我 元服 曾我 合浦

第六卷

●龍山 ●兼平 ●警願寺 ●葵上 ●禪師 ●曾我 ●佐保
 ●關原 ●與市 ●藤 ○ 鶴崎 ●小町 ●松山 ●鏡 ○ 枕 ●慈童 ●忠信 ●吉野 ●靜
 ●二人 ●靜 ○ 歌 ○ 第六天 ●加茂 ●物狂 ●身延 ●現在 ●七面 ●瀧 ●東
 ●方朔 ●俊成 ●成度 ●梅枝 ●加茂 ●物狂 ●車僧 ●御裳 ●瀧 ●礎 ●澹
 ●浮船 ●千引 ●小鍛 ●治

第七卷

●佛原 ●戀 ●重荷 ●龍虎 ●兼 ●龍虎 ●道明 ●寺 ●空 ●蟬 ●水 ●無 ●月 ●夜 ●昭
 ●君 ●大 ●社 ●住 ●古 ●詣 ●雲 ●雀 ●山 ●飛 ●鳥 ●川 ●葛 ●城 ●天 ●狗 ●淡 ●路 ●港
 ●海 ●櫻 ●川 ●水 ●無 ●瀨 ●谷 ●行 ●野 ●守

通俗文學全書

正價 十二册 金壹圓六拾錢 郵稅壹册六錢 全部 百六拾餘頁

國語といひ國文といひ和文學の流行に頗る高度に達したるに於て、
 現時社會の關係を忘れたるが如き觀なき能はず此に於て通俗
 文學全書の生れたる豈偶然ならんや其目的は貴族的にあらずも
 のに平民的文學の獎勵にあり其趣向は定義すべくもつかずし
 故に卷の順序を立つるにも學問上の正法に依らずして讀者を倦
 ましめざる一の變法を用ゐるに以て結局に至り初めて大團圓の文學
 者ならしめん事を期したるのみ

全部拾二册 洋裝大判 紙數壹册

修辭學全壹册

文章の美觀收めて本書にあり筆を把るものは東都の文豪紙に落
 ちたるは美文の深粹美觀何等の美觀と思を風霜雷霆に驅り筆を
 剪影紅花に色ごる細は花鳥月露を描き大は策猷經綸を談す惟夫
 れ一枝の筆千古を風動し萬世を傾倒す。詮し來れば此大文章も
 唯華麗の辭美妙の句のみ、文章修辭の功豈又大ならずや巧みに
 言語を變化活用して備きに妙境に達し以て人の心意に至大の感
 を發生せしむるものは修辭學にあらずや文章の趣味感并に聽
 納者を感動せしむるものは修辭學にあらずや本書之を發明する
 も極めて斬新明晰問題によりて文章裝飾の必要を説き定義を叙
 し研究法を示し一轉して文の原素を論し文の裝飾を述へ更に進
 むて其深宮に入る凡て是西洋のシトリツクを應用して和歌和文
 の作法を趣味的に論じたるもの若し一度本書を繙かば才情油の
 如く文思泉の如く湧かむ平民的文學の福音は本書にあらずして
 何ぞ。

新體詩學全壹册

歐米文學の空氣一たび歴入せしより新體詩の流行日に月に隆盛
 を極め雜誌に新聞に其作を見る事はさんご虚日なきが如し然れ
 ども未だ嘗て之が作法を教へ之が方針を示したる書の出でざる
 は遺憾なり此に至てか先生の此著あり書中に説く處問題に起り
 て次に新體詩の沿革より、句格、段格、用語、意匠、裝詞、文法、遠
 例等の數章を経て、書式、讀法、作例、新案に終る其文解し易く
 其趣向實に面白し苟くも文學に志ある諸君子の興味と實益とを
 併せ得らるゝは蓋し此書に在らん。

●應 用 和 文 學 全 壹 冊

「こそ」けれ「なん」侍るの源氏文。美は美なり。雖も普通文は之にのみ偏すべけんや。「夫れ」此を以て「所以なり」の外史文。妙は妙なり。雖も普通文は之にのみ傾くべけんや。此一柔一剛の兩極文體を折衷し、謂ゆる通俗文學を定めん事。先生が年來熱心に研究せられたし所なり。應用和文學の出でたるは、蓋し此持論と研究の結果とを世に公にせられたしのみ。請ふ看よ、先生が平易の文體に其理想の在る處を明にせし者なる事な。

●狂 言 評 註 全 壹 冊

能の狂言は足利時代の言語を留めたる著音器なり。足利時代の風俗を造したる寫真なり。之を一讀せば、當時に言文一致の文章ありしを知るべく、之を二讀せば、當時に通俗文學の好例ありしを見るべし。中には諧諷を以て世を諷し、冷罵を以て人を笑はすの妙に、是りては他に何物も肩を比ぶるを得べき。先生此に見るあり。其妙文を特撰して評註を加へらる。其評は輕快、其註は瞭明、閑窓永日の友蓋し之に過ぐるもの無からん。

●應 用 歌 學 全 壹 冊

世に和歌の作法を教ふる書多し。雖も、其簡便にして興味を備へたるは、大和田先生の應用歌學なり。如何に初心なる少年子女も、讀んで解し、試みて實益あるは、大和田先生の應用歌學なり。卷中易く試みて實益あるは、大和田先生の言語の撰導法あり。題詠心得あり。文法十條、作歌訣あり。思想に實修の法を挙げ、先生が門生の詠歌に、添削批評を加へたる實例を示し、更に古人家の作品に就きて、其妙處を指摘せらる。明し給へ。歌學に志す方々、讀んで歌たる所以を辨

●紀 行 文 選 全 壹 冊

今や汽船汽船の便四方に起りて、短きは一二泊、長きも一二週間にして、名所古跡に逍遙し、溫泉海水浴に晷を遊ぐる事、自在の世の中を爲りぬ。されば旅行者の年々増加する事共に、旅行日記を書く人の蓋し其カバン中の一要素たらしめんの意のみ。本書は其機絶となるべき古今の紀行文を選集し、之に評註を加へたるものなり。

●歌 曲 評 註 全 壹 冊

神樂、催馬樂、今樣、謡曲、長唄、端唄、子守唄、手鞠唄に至るまで、我日本の歌曲ならず云ふ事なし。然るに世人動もすれば、古曲を尊びて、新曲を卑むは、何ぞや。他なし。時勢人情と共に沿革あるを知らざるが爲めのみ。先生此に慨する有つて、此書を著はす。蓋し其精神は古を引きて、今を興さんとするに在るなり。見るべし。評註の以て爲めにする處あるを。

●應 用 漢 文 學 全 壹 冊

漢文學とは何ぞ漢文を讀む事と。漢文を作る事との研究法を謂ふなり。應用として何ぞ吾に理論を究むるのみに止まらずして、之を實修せしめ、我和文學の一助と爲るに應接せしむるの方法を謂ふなり。されば此書は漢文學にして和文學を兼ね、説く處の事高尙に似たり。且も實は通俗文學的精神を以て漢文學と同一視せられざらんを。

● 淨瑠璃評註 全壹冊

諸葛孔明の服飾表を讀んで、泣かざるものも、伽羅千代萩を讀めば、必ず泣き。李密の陳情表に對して、涙を灑ぎ、さるものも、瑠璃文章の通俗にして、必ず涙漣々たるは、何うや。他なし。淨瑠璃文章の通俗にして、多數の讀者を感ぜしめ易き、爲めのみ、或は怒り、或は笑ひ、或は泣き、或は歡び、趣向に變化多くし、文章自在を極むるが爲めのみ、本書が通俗文學に熱心の餘、此評註を著して、其解し易く、味ひ易きものより入らしめんことを、其註や、丁寧。其評や、爽快。誰かのを一讀して、近松文學の眞趣味を、掬し得ざるものあらん。

● 作文組立法 全壹冊

曰く言語と文章、曰く文章と思想、曰く作文の要領、曰く作文の批評、曰く作文の實修、曰く文題の標準、曰く文章の種類、順序を遂うて初學者の者も入り易く、方法を明にして獨學者の人も窮め易し、是れ此書の特長なり、古文を學ぶを二の次として、今文に従事せよと勸むるは、此書の精神。模擬に流るゝ弊を嫌ひて、我思想を寫せよと教ふるは、此書の骨髄。以て一讀再讀の價値ある事を知るに足らん。

● 書簡組立法 全壹冊

曰く書簡文書き習ふべし、曰く書簡文たやすく書くべし、曰く書簡文は他の文體と異なり、曰く漢文的に偏すべからず、曰く和文的に偏すべからず、曰く男女性を異にすべし、曰く四つの性質を備ふべし、是此書の書簡文の書方を教ふる目錄の大要なり、其他に稱呼の事あり、八つ書きの事あり、封紙の書式あり、書簡文の種類あり、以て日用便利の書たるを知るべく、以て男女座右の寶たるを知るべし、終に文例を擧げて其模範を示し、參考文を掲げて徳川時代の作を載せたり、此に至つて書簡文を學ばんことを人々に取りては、其便其利一として漏るゝ處なし。

● 日本文人傳 全壹冊

名文名歌ありと雖も其作者を知らざる時は索然として味無きに近からん、其作者を知るに雖も其傳と時代とを詳にせざる時は豈玻璃を隔て、美粟に對するの感なからんや。通俗文學全書の第拾貳編に於て此目的を達せしむるものは、蓋し本書中に應ば引用せし歌文作者姓名をなして、未だ腦中を去らざる前に其記憶と趣味とを益す強固ならしめつゝ、施いて古今文界の大家を紹介せんとするに在るのみ。此に至りて此書一先づ完結す。全篇拾貳冊相連絡して離れざるの書たるは讀既者に豫知せし處なり。今や此巻を得て亦遺憾なかるべし。

國民文庫

全部拾二冊
洋裝美本
壹冊紙數
二百餘頁

正 價 ● 壹冊金拾貳錢 ● 六冊金六拾七錢 ● 十冊金壹圓貳拾五錢 ● 郵稅壹冊六錢宛

國民文庫は、文學の新天地を開闢するものなり。國民文庫は、詩學の新知己を紹介するものなり。國民文庫は、新體歴史の開拓に奮つて鋏を執るものなり。未來の新社會は、又既往の舊社會にあらざらんことを、實に此活動社會と共に一新すべき文學世界の風潮を卜知すべきは、此書あるのみ。

●歐米名家詩集 全參冊

西洋文學にのみ狂する者は、東洋詩歌の妙味を知らず。和歌和文にのみ偏する者は、歐米韻文の真趣を解する者少なし。大和田先生此に慨する有り、學東西を兼りたる才筆を以て、此篇を著ばす。波シエロ、クリスピアの情緒纏綿たる、シエロ、シエロの優美流調なる、パインロンの快活幽玄なる、シエロの清妙巧緻なる、スコットの雄壯悲愴なる、ウチーゾウチーリスの多興多趣なる、以て才子汎上の珍さ爲すべく、以て佳人座右の友さ爲すに足らん。

●新文林 全貳冊

大和田先生の理想を示す處の新文林は生れ來たり、和漢洋を折衷し、雅俗古今調合せの新文林は類はれ出でたり、遊記あり、記行あり、諷刺あり、諧謔あり、論あり、説あり、傳あり、序あり、優美婉麗、吉野の春を寫すもあれば、凄涼寂寞日光の秋を畫くもありて、間々挾むに新色滴るの長篇歌編を以て、一書を購うて閑窓の下に繙きつゝ、茶を呼ぶも、好からん、瀟車に瀟船に携へつゝ、旅行の友さ爲すも可ならん。

●新體日本歴史 全貳冊

面白く書かんすれば大冊に過ぎ。小冊手に纏めんとすれば簡易に偏し、要領をも盡さる。歴史編纂の通弊なり。且つ歴史には漢文直譯流あり、和文擬古體あり。或は翻譯體丸出しなるもあり。何れも悪しきにはあらざらん。歴史を學ぶと同時に文章を兼修すべしといふ、傾利法よりいへば不完全なる感あり。大和田先生が持論なり。此書小冊手にして簡易なるは紙數の少なきと價の廉なるにて之を知らん。其體裁の新體にして趣向の面白きと、其行文の和漢洋折衷體にして優美流滑なるは先生が持論と平生の筆力とにて之を知らん。以て獨習用にも供すべし。以て教科書にも爲し得べし。

●新體萬國歴史 全貳冊

曰く行文流麗にして快活。曰く叙事簡潔にして具備。是れ此書の一讀興味を感じしめ、再讀卷を棄つるに忍びざらしむる所以とす。世に萬國歴史多し、然れども未だ嘗て和文大家の手に成りたるものあらず、此書の一特殊の妙味ある。言はずして知るべきのみ。

●明治文學史 全壹冊

王政維新以來百事開明の進運に向ふこと此に二十九年。其間に著大の發達を爲しつゝ、ある文學界の現象豈認すべきもの少しとせんや。一たびは翻譯書の流行と爲り。二たびは新聞紙の擴張と爲り。三たびは小説の隆盛と爲り。四たびは和漢文學の再燃と爲り。五たびは韻文論平民文學の勃興と爲る。實に筆研家多事の秋なり。讀者若し閑窓の下に此書を繙かば、肩ながら明治文學のパノラマに對するの感あらん。

●文學遊戯 全壹冊

既に文學といふ八益し、所謂なる文字なり、既に遊戯といふ面白ざる事、水氷炭も當ならざる者、一行に書下して文學遊戯と稱す、運既に奇なり、さういふべし、奇く偏か八益主義、面白手段、巻を開き、其奥を探らば、知るべし、市に賣るもの、各々看版あり、曰く、蕎麥曰く、酢飯曰く、酒曰く、餅、是等は、一見して、其品物を詳にするを得、れども、淺草奥山の曲馬、玉乘山雀の籠に至りては、一枚の看板登、悉く其趣向を説明し、盡すを得んや、文學遊戯も外、これを見えぬ處が玉なるべし、白雲深處、金龍躍、春も奥ある三吉野の出

●英米文人傳 全壹册

標として花の如きあり、環として玉の如きあり、或は清風徐るに來て水波起らんとする如きあり、或は狂雲時に捲て電光地を走る如きあり、人一人たび書此を取つて讀まば、英米幾多の詩人文人來つて友さ爲るべく、坐して其境遇の喜怒哀樂を語るべく、世に文學者の傳を載するの書多しと雖も、未だ遠く之を歐米に探つて、文書の要素を講究するの材料たらしむるものあらんや、先生が此著一々燈下の幽鬱を慰むるのみに止まらんや、建武里の月庭舞洲の雨、或は情生を起たしむるものあらん、武夫を泣かしむるものあらん、

日清 戰話 軍人 龜鑑

全貳册洋裝
大判美本
一册廿五錢
郵税一册六錢

清國樂城灣、旅口市街、宇品灣全景、大元帥陛下奉迎日比谷凱旋門之圖及故有栖川大將宮ヲ始メ陸海軍將校七十名の肖像ヲ寫眞銅版ニ附シテ掲載セリ
戰へば勝ち攻むれば取る、征清軍の偉勳雖圖は載せて悉く此書にあり、彈雨砲烟の間に命を奉じ風雪波濤の中に身を献ぜし忠臣勇士の壯話烈談は、羅して漏さず此書にあり、文すべて活潑すべし切實、之を讀んで泣かざるは必ず不忠の臣たり、之を讀んで起たざるは必ず不義の民たり、加ふるに、精緻なる寫眞銅版を以て從軍將官の肖像を示し、頭書には戰事詩歌を集録して當時國民意想の向ふところを知らしめたり、實に青年社會必讀の書は、これを措て他に亦何有る。

文部省 御撰定 祝祭日唱歌註釋

全壹册洋裝
正價參錢
郵税二錢

尋常 小學 帝國唱歌

全二册和裝
書譜入美本
正價拾四錢
郵税四錢

高等 小學 帝國唱歌

全二册和裝
書譜入美本
正價廿四錢
郵税六錢

此書は兼て和歌作者として老練の名ある大和田先生の歌に附するに和洋諸大家の作曲を以てせしものなれば平易優美にして趣味多く譜は簡潔流調にして尤も兒女を喜ばしむべし歌には一々傍假名を附け間には細書を抜みて餘情を示せり。

明治書簡文

全壹册和裝
一六先生書
正價三十錢
郵税四錢

明治女子書簡文

全壹册和裝
鸞亭先生書
正價三十錢
郵税四錢

兩書は大和田建樹先生が、新年より年末に至る時々に應ずる贈答文數十項を、實地通俗に物されしを、兩先生が得意の健腕を揮はれたるものにして、以て日用書簡の習字手本となすべく、亦其作文軌範と爲すに足る、何人も一本を求めて座右に備ふべき良書なり。

小中村義象、落合直文、萩野由之三先生校訂

日本文學全書

全部廿四卷
洋裝頗美本
每編紙數
四百廿餘頁

正價

●壹册金廿五錢 ●六册金壹圓卅五錢 ●十二金二圓
五十錢 ●全廿四册金四圓七十五錢 ●郵稅壹册三錢

芙蓉の峯、琵琶の湖。秀麗宇内に冠絶す。此の天地鍾靈の間に於て、美術の萬邦に超出するものあるは固より其の所。文章の如きも亦果して一種の風色氣流あるを見るなり。人多くは、日本文今の文學を幼稚なりと云ふ。然れども誰か知らん、千百載の前の、既に優麗清雅の文章あり、光彩絢爛として一世に照耀せしを。源氏物語を見よ。土佐日記を見よ。枕草紙、徒然草を見よ。是れ實に千古容易く得べからざるの文なり。但た戰國以來は武人跋扈して文學地に墜ち、妖雲長へに文章を蔽落して今日に至るなり。惜むべきに非らずや。小中村義象、落合直文、萩野由之三先生は、當代和文の名家に、造詣最も深し。今古文の隠没して多く顯れざるを慮り、自ら古代の名文二十五編を撰定校閲し、名けて日本文學全書といひ、繁館に托して之を公にせしめらる。此の書一たび世に出でてより、日本固有の文章は再び萬丈の光輝を放ち、明治文學の進歩を推迫して一轉すべし。夫れ支那文學の骨髄は十子に在り。韓柳歐蘇以下皆の亦源を茲に發し、西轡の健雅は古文に在り。彼の俗文なる種彦の婉麗、支考許六の清逸古朴なる、皆之より出でしなり。文學の外、別あるものは、先づ日本固有の趣味を阻みて、漢文歐後、想を構へ、筆を下さば、明治の文學は竟に字内に冠絶して、天地と共に不朽ならん。

●第一編 目次

前内大臣三條實美公題辭
文學博士小中村清矩先生序文

●竹取物語 日本小説の鼻祖にして、竹取の翁が竹のしける者にて、著者は源順朝臣なりといふ説あれど、徒らす。その文その趣味の優なるに至りてはいふまでもなし。

●伊勢物語 在原業平朝臣が、折にふれてよみおける歌を、後の人の作りかへたるものなれど、その文の簡潔簡雅なるはまた並ぶべし。

●紫式部日記 上東門院の侍女、紫式部が日記なり。その文章思想の卓絶なるは、更にいふか待たざるべし。

●住吉物語 其の作者詳なきも、申納言兼左衛門督の女繼母に於て、からきめにあへるさまなど、目前に見るが如き感。

●徒然草 師吉田兼好が、隨筆なり。こは見聞のまゝを寫すといへども、風流花月無常世の風情筆にあらはれて、妙味いふばかりなし。

●第二編 目次

●第一位伯喬佐々木高行公題辭
大教正本居豊顯先生序文

●土佐日記 紀貫之、延長八年土佐守になりて赴任し、六年の後任期満ちて、京に歸る時の紀行なり。こは紀行文の始、假名文の祖といふも可なり。

●枕草子 一條天皇の皇后定子に宮つかへて、夙に才學の豊高かりし清少納言が隨筆なり。こは兵に文の妙をのみいふ

に止らずして、當時宮中の形勢を伺ふに材料好なり日記なり。天喜頭の記事も記せり。この女幼より文才ありて、その筆づかひ凡ならず。殊に歌をよく詠みたりしは、書中に於ても見るべきなり。

●**方丈記** 日野外山の僧蓮胤、鴨長明が記す。老莊の道に達し、名利を厭ふ意いよく深く、遂にこの書を著して思を叙せり。その文その意に伴うて妙。

●**第三編 目次**

正三位伯爵吉井友實公題辭
正七位久米幹文先生 序文

●**十六夜日記** 歌所の所續播磨の國細川の庄を、爲他腹の爲氏これを押領したりし子、爲相の譲り置かれしを、さりかへす訴訟おこさんさて、京より鎌倉へ下向の時、かける道の日記。

●**落窪物語** 作者詳ならず、いはゞ一の悲子なり。つかにくみて、子の數さもとりあり。

●**辨内侍日記** 内辨つかはざる様、實に寫してて妙。

日宮仕への折の日記なり。この書後嵯峨院の寛元四年正月廿九日、富小路殿にて御讓位の事ありしより書き始めて、建長四年十月迄の事を記せり。その書や妙。その筆や麗麗。

●**第四編 目次**

文部大臣正三位井上穀先生題辭
文學博士黒川眞頼先生 序文

●**堤中納言物語** 本邦短篇小説の鼻祖なり。物語文章の高雅なるは作者の妙なり。この書

の作者は、世に藤原兼輔なりと傳ふ。●**こりかへばや物語** 二人の子男女その性質を異にして、その行も

ひしによれる名なり。その文また妙なり。●**四季物語** さいへども、作者年代ともに詳ならず。

四季をり、の公事節會を、和文にかきこなしたるものにて、禁廷の興を伺ひ知り、また文の手法もなしたるべきは、その文章に妙味あればなり。これ長明が厭世的の文。

●**第五編 目次**

正二位伯爵伊達宗城公題辭
從四位丸山作樂先生 序文

●**中務内侍日記** 故後深草院を忍び奉る事より書迄の間、中務内侍禁中にありて、所々の御幸などに供奉せし時のさまなき假なく記せり。中にも伏見天皇御即位の次第及大嘗會の事をかき記せり。史學の好材料といふべし。

●**讀岐典侍日記** 堀河院の侍女讀岐典侍が妙。●**和泉式部日記** 冷泉院第四の皇

皇の御即位より、大嘗會の事までのあらましを、麗麗なる筆を

し日記なり。●**蜻蛉日記** 右大將道綱の母の日記

郭道親王、和泉式部もさへ通ひ給ひし事あり、又その文の優

雅式部が麗麗なるは、この書に共なり。●**蜻蛉日記** 右大將道綱の母の日記

兼家がこの女に通ひせしめしより、道綱誕生の事、應和三年道綱

章殿上の事、元祿元年衣服の事、天延二年廿歳の程の事迄を

●**第六編 目次**

從一位公爵九條道孝公題辭
從五位木村正辭先生 序文

●**濱松中納言物語** 中納言なりける人の漢土へて葉を生み、そを伴ひ歸りたる事より始しめ、その子の母

を慕ひて佛道に入りし事、なごをける作り物語なり、情真に

せまれば、●**大和物語** 見聞の事ながら何くれと書き記し

せたり、その文跡に一種の妙味ありて
おもしうし、されど作者は詳ならず。**●唐物語** 語耳妻き
話説を、おもしう和文にかきなたる者にして、その文に
一種のいふべからざる情を含みて、幾度となくくりかへし讀むとも
飽かざる者は、これ作者が妙といふべし。

第七編 目次

從三位男爵千家尊福公題詠
大教正 落合直澄先生 序文

●宇治拾遺物語 大納言源隆國の作にして、當時
て、おもしろくきなしたる者なり。その文の妙なる
事は、大に世にもはやされたるを見て知るべし。**●多**

武峯少將物語 應和元年十二月五日、右近衛少將藤
より、同二年夏の頃までを記せる者なり、こぼその當時にあり
て親しく仕へし人のかきあつめたるものならんか。

自第八編 目次
自第十一編 目次

從二位男爵元田永孚公序文

●源氏物語 (全五冊) 村上天皇の皇女、大齋
に徒然戀むべき珍
しき草子や侍ると、尋ね給ひし時、中宮は宇津保竹取など目
馴れ給ふべければ、新しく作りて上らんと思ひ、さて紫式部に
命じて、綴らせ給ひし作り物語なり。その文その情の豊富婉麗
なるは、またその他にあらずといふ可なり。

自第十三編 目次
自第十五編 目次

從二位伯爵東久世通禧公題辭
大教正本居豊顯先生題詠

飯田武郷先生序文

●榮花物語 (全三冊) 村上天皇の御世より
始めて、堀河院の寛
治四年の頃までの事
いふばかりなし。この書の作者を、世に藤原の爲業といふ。

自第十六編 目次
自第十八編 目次

從一位公爵久我建通公題辭
正七位内藤耻叟先生 序文

●太平記 (全二冊) 花園院の文保二年より、後
光嚴院の貞治六年まで、凡
そ五十年間の事を記せる者
なり。書中記せる事は、虚實打ち混ぜりといへども、史學の一端
を助くる事は、もとよりいふを待たざれども、亦た文章の妙に
至りては、平家物語と相ならびて、ともに優雅と稱せられずり。

第十九編 目次

小杉楳村先生序文

●保元物語 叢轂の下に於て、父子兄弟相抗戦し、倫
文章にまさりたる
る一部の雜史なり。**●平治物語** 平治の亂の始末より
りては保元物語と異なる處すくなし。**●秋夜長物**
五言男色をもこくしてはひなき事をおもはるは猶見るべきなり。
三言り物語なり。その文跡に古雅なる處あるは猶見るべきなり。

●鴉鷺合戰物語 祇園林の鳥東市佐村眞玄とい
ふ者、中嶋の森なる鷺山城守
津守正素が女を美麗なるを戀ひ、そを妻にせんぞ申しこみしに
事おこり、遂に一大合戦をなしたる事なごも載せたる作り物語
なり。この書専ら語譜を旨として、大に世を諷したる、一條兼良
の筆なり。

從二位伯爵東久世通禧公題辭
大教正本居豊顯先生題詠

●第二十編 目次

●平家物語

平家繁昌の事より。その没落に至るまでの事を優美麗麗なる筆を以つて、おもしろくつきなしたる一部の雜史なり。この書は始め盲人に語らせ、琵琶に合せて聞きしものなれば文章の雅調妙味はかへりて太平記にすぐれたり。

●第廿一編 目次

●今古著聞集 或は諸家の記録により、或は自己の至るまで、三十種に類を分ちて説話を著録す。こは大抵實録にして、信據すべき事ごもな、編成季わりやすくつきなしたる者なるや、文章の妙その中にあり。

●第廿二編 目次

●十訓抄 著者詳ならずといへども、その見聞せる事ご章の平易にして解し易く、見あひぬ處は作者の妙なるべし。●公事根源 一條兼光の時足利將軍景公の所望によりて、朝廷の儀式をその根源をさぐり沿革をのべて、和文にかきなしたる者にて、その文章の妙なるは、國文の軌範ごもなしつべし。

●第廿三編 目次

●水鏡 中山内府忠親公、神武天皇より仁明天皇嘉祥三年したる者なり。その文章に一種の特色ありて、頗る妙味あり。●大鏡 藤原爲業、一條院まで、凡十四代百七十六年の間、帝王大臣等の事實を、部に分ちて撰りなくつきつゝられし雜史なり。只にその文章の優雅なるのみならず、史學に補益する處また多しといふべし。

●第廿四編 目次

●増鏡 後鳥羽院の御時より後醍醐天皇元弘三年までの事を記せるものなり抑この三鏡は神武帝より後醍醐

帝の上つ方の歴史を國文にて面白く記したる者なれば史學上缺く可からざる珍書なり。
北村季吟先生註

枕草子春曙抄

清少納言の枕草子は、紫式部の源氏物語と共に、世にめでたき者に稱せらるゝといへども、その文の古雅なるがため、こをみ親むる者世に少し、この書は難語の解釋、制度の説明、實に親切を盡くしたれば、苟くもこの道に志ある者の、座右に供すべき珍書といふべし。

萩野由之先生校訂標註

標註枕草子

清少納言の枕草子、其文の絶妙なること言ふまでもなし、然れども能く之を咀嚼して、無限の味を知ることは頗る難し、此標註は簡明切實にして能く其要を得たり、殊に此書の特徴他に勝れるは簡卷首に通解を加へて、當時の時勢風俗人情に固より、宮中殿舎の有様、衣服器具の圖解まで、凡當時京都縮紳社會の情態は悉く解説したれば、先づこれを讀みて後に本文に入るときは、暗燈の下に於て見慣れたるもの、太陽の光にて見るが如き觀をなさん、さ俗史として、又他の草紙物語を讀む参考書として、一部に益あるべし、希くは購讀を賜へ。

下野遠光、山崎庚午太郎兩先生編

日本文學集覽

全壹册上製 正價二拾錢 郵稅拾錢

大判密書入 全二册洋裝 正價卅六錢 郵稅十四錢

全七册木版 大判唐裝 正價廿八錢 郵稅拾八錢

佐々木信綱先生校訂標註

校註徒然草

全壹册洋装
大判美本
正價拾五錢
郵税六錢

徒然草は、從來の國文書のうちに、最も勝れたる書の一にして、最もあまれく行はれし書なる事、國文を修むる人の知らるゝ所なり。然して本書の他に異なりたるは其校訂の最さも正しく、標註はまた繁に過ぎず略に過ぎざるにあり。國文を學ばんとする人は、必まづ此書を坐右に備へられん事を。

佐々木信綱先生校訂標註

校註土佐日記

全壹册洋装
大判美本
正價八錢
郵税二錢

土佐日記は、俄國文の祖たる紀朝臣の紀行にして、千古の名文たる事、及其校註の宜しきを得たる事は、今更に喋々を要せざるべし。然ども特に茲に一言するは、本書の他にまされる要點即ち挿入せる地圖なり、第一は土佐より京都にいたる全躰の圖、一は土佐古代の圖、一は土佐近代の圖とす。凡地理を知らずして紀行をよむは、暗夜に燈火なくして道を行くに均し此詳細なる地圖に依りて此書を繙かば以て當時の航路を知るを得べく、以て地理の變遷を知るを得べく其明瞭なる事層一層といひつべし。

佐々木信綱先生校訂標註

校註方丈記

全壹册洋装
大判美本
正價八錢
郵税二錢

方丈記の著者鴨長明は、儒學に通じ歌文にすぐれし人なり。此書自身經歷せられし三十四年間に、大火大風大飢饉大地震福原遷部等の非常の天災變革有し事を記し、其感慨を述べられし書にして、文體雅に偏せず俗に偏せざれば、普通國文の模範とせんに、最も適當せる好書なり。

佐々木信綱先生校訂標註

校註更科日記

全壹册洋装
大判美本
正價八錢
郵税四錢

更科日記は、菅原孝標朝臣の女の、常陸より都に上られし紀行を以て筆を起し、一身の經歷を自ら編述せられし傳記なり。孝標朝臣の女に、業女清女に次ぎて、文章にすぐれ和歌に秀で、濱松中納言物語、夜半の寢覺等を著はしたる人、しかも幼時より文學に志ふかく家政の困難なる中に立ちて、よく其困難を凌ぎ、猶其志をかへざりし等の有様、通讀するにさながら其人にむかふが如し、物語草、紀行等は、他に其類多しと雖も、自傳の文とせば、模範にすべき書此書をおきて他にあらざるべし。茲に原書寫讀多く、地理の錯誤せる所少なからぬを、佐々木先生丁寧綿密なる校註を添へられれば、いかなる人も一讀して、其歌文の妙をささりうべき書也。

佐々木信綱先生校訂標註

校註竹取物語

全壹冊洋裝
大判美本
正價八錢
郵稅四錢

竹取物語は、我成小説の始祖にして、其趣向絶妙なり其礎を唐上天竺に取り、王公貴人一人の女子に迷へる様を叙して時世を諷刺したるが如き、又其文章典雅簡潔にして、しかも人情の精微を穿ちたるが如き、源氏物語に比して一層の觀あり。國文に志す人は必ず一讀すべき書といふべし。

佐々木信綱先生校訂標註

校註伊勢物語

全壹冊洋裝
大判美本
正價八錢
郵稅四錢

伊勢物語は在り業平朝臣の自傳なり、其古雅にして、其歌管金玉、國文國歌を學ばんとする人は、再三讀み味ふべき書といふべし、殊に本書は世にやゝもすれば本書を效讀せずして、本書を非難する輩あるを以て、業平は忠孝の心最も深くして、しかも藤氏の專權を重り、皇室に心を盡したる人なり、事蹟を擧げ業平の行を評論せる二十四頁の緒言を添へたり。業平の詳傳を知らんとする人も又必ず一讀し賜ふべし。

内田不知庵先生著

文學一斑

全壹冊洋裝
正價拾二錢
郵稅四錢

羽化生 澁江保先生著

希臘羅馬文學史

全壹冊洋裝
正價拾二錢
郵稅六錢

希臘文學史を説きては上古雅典衰世の文學を詳説し其文華の偉觀壯麗を叙し羅馬文學史を述べては文學の第三期に分ち其豪宕雄活を論ず時に悲歌樂詩短長の真粹あり時に悲筋軟風を諸ふの衰世文學となる發して王政時代の文學となり進むて其發達となり戯曲となり散文となり哲理文學となり帝政時代の修辭學小説となる其文學の變遷により其隱微により社會の事情を解剖し提顯し來らば其快味豈に文學上の趣味のみならず正に希臘羅馬文明の急流に棹し左顧右盼兩峰の風色應接するに違あらざるべし。

羽化生 澁江保先生著

獨佛文學史

全壹冊洋裝
正價拾貳錢
郵稅六錢

英國文學史

全壹冊洋裝
正價拾貳錢
郵稅六錢

獨佛文學史は獨逸佛蘭西及び英國上古より現時に至る迄の文學の沿革を明かにし有名なる詩文戯曲小説家史家哲學家論文家等の傳記特説及び其著者の性質大意等は勿論殊に諸の有名なる戯曲小説の筋書に至る迄詳細に叙述したるを以て一たび卷を繰れば三國古今の文學を味ふを得べし。

第一高等學校講師增田于信先生合著
第一高等學校教授小中村義象先生合著

中等 日本文學史

全壹册洋裝
正價廿五錢
郵税八錢

本邦文學の趣味は漸く我國民の知る所となりたれども猶いまだ不満足之感なき能はざるなり本館さきに文學歌學の兩全書をはじめ數多の文學書類を出版して大に讀者諸君の喝采を給はり毎編五六版に至らざる者なかりき本書もまた本朝文學の沿革史にして學校學術文字文學詩歌歴史小説等の數章に分ちて叙述せり而してこれらの起原沿革を詳述し文學の盛衰興亡を一々明示したるものなれば學者の參考となるべきもの夥からず殊に文學界に聞のある兩先生の手に成れるものなれば文體頗る流暢にしてその一大好著たる推して知るべきなり。

内藤耻叟先生、小宮山綏介先生校訂標註

近古 溫知叢書

全部拾二卷
洋裝頗美本
紙數壹册
四百二十頁

正價 壹册金二十五錢 六册金壹圓參十五錢 全
部十二册金貳圓五十錢 郵税壹圓六錢 全
故を温れ幽を闡き癖を按き華を拾ひ奇書珍書七十有餘部を網羅して此温知叢書十二册を編成す隨筆あり日記あり類書あり辨疑あり燦然臚列して江湖の蓋に懸す史を修むる者文を作る者の必要缺くべからざるの料たるに絶なし好書家は以て坐右の至寶となすべく旅行家は以て舟中車上の好玩となすべし

● 第一編目次

奴 だ こ…太田 蜀山

自序にも老のれざめに思ひ出せるくさんくをそこはかさなく書きしめるさあり清酒輕妙蜀翁の本色を見るべき書なり

老のたのしみ…市川 柏筵
有名なる二代目團十郎の日記なり此柏筵俳句に巧なりしかは書中に往々俳優の俳句多し其他當時の風俗を察するに足る珍書なり

異本同房語園…莊司 勝富
洞房語園數種あり此書は五本を參して校訂せる者にして最も完全なるものなり古板の詩歌文章のみを轉めたる者さば全く別なり

東海道名所記…淺井 了意
其文は滑稽にして其事は實錄なり殊に原因を其まくに縮寫したれば二百年前の風俗を見るに缺くべからざる珍書なるべし

● 第二編目次

白石小品…新井 白石
白石先生が武家の制度故實を取調べて幕府に上りしを徳川家の秘庫に藏めあり書なり故ありて一本を寫すを得て收めたり

幕朝故事談…著者 不評
幕府の典故を集めたる書多しと雖も簡にして要を盡し且實を寫して虚談なきこは此書に如くばなからん

八水隨筆…著者 不詳

確實なる隨筆にして一半は文庫一半は武事を録せり蓋し當時の武士にして粗文學にも通ぜる人の著なり

用捨箱…柳亭 種彦

用捨箱とは紙屑箱といふ程の意なるべし博覧にして世俗に精通せる種彦翁も何に限らず面白き考證を集めたる書なり

後は昔物語…手柄 岡持

岡持は狂歌狂文の名人なり滑稽風流洒落の人なり此翁の隨筆なれば問はずしてをかしき談の多きを知るべし

俗耳鼓吹…太田 蜀山

翁の隨筆中稍特色あるものなり河東其他の俗曲を品藻する條十の七を占む鼓吹の題號ある所以なるべし

●第三編目次

松屋叢話…小山田 興清

博學精通の閑高き松廼屋翁の隨筆なり専ら文學家の逸事佳話を集む最も有益なる記事多し

斯文源流…河口 靜齋

靜齋翁は名儒なり斯文源流は儒學の系統を述ぶ簡明要を盡すも亦宜なり

内安錄…内藤 忠明

内安は内藤安房守の筆録なればなり西丸留守居の折の撰にして文恭公の逸事及び幕府殿中の事など専ら記したり

妙々奇談…周 滑平

誠の名の如き書なり卓識ある其翁が講談戲語に托して大に當時の名家を罵倒したる書なり

本朝世事談綺…菊岡 沾涼

日常細大の事物悉く其源流を記して洩すこなし加之簡に失せず繁に流れず尤も記誦に便なる好書なり

劇場新話…著者 不詳

劇場の起原沿革より江戸時代劇場最盛の時に至るまでの一切の人物職事物件色目習慣等まで内幕を穿ち盤す實に歴史の重狐也

●第四編目次

閑なるあまり…白河 樂翁

總川氏三百年間隨一の名相の隨筆にして愛國の言其遠識を察すべし茲爾たる小冊子と雖も實に寸鐵人を殺すの概あり

野叟獨語…杉田 鷗齋

鷗齋は若狹の名醫にして學漢洋を兼ね故に愛國の言婉々聞くべし渡邊華山高野長英は蓋し風を聽て起る者なり

寬天見聞記…著者 不詳

寛政天明の間即江戸極盛の時代に在て其政事風俗の模様を記す尤も實録なり

平賀鳩溪實記…著者 不詳

滑稽奇抜を以て一世を輻輳したる風來山人平賀源内の傳奇なればその面白き小説を讀むに勝れり

くせ物語…上田 秋成

秋成翁は和文の名家也此書は伊勢物語に擬せし者なれ共盡く世を諷し俗を嘲りたる書也小林歌城が點刪評註せしを其儘出せり

淨瑠璃譜…著者 不詳

昔し大坂の竹本豐竹二座淨瑠璃の盛衰を列叙す蜀山翁の舊藏本なり竹田出雲近松門左衛門の盛なりし時代を記せるもの此書を推すべし

紫のゆかり…岡山 俊明

明暢禁履なる和之を以て江戸市中の風俗を寫す殆んど實境を見るの想あり

増補浮世繪類考…笹屋 邦敏

邦敏の原稿を出東京傳式亭三馬隠士無名翁齋藤月峯等が増補せるもの也浮世繪の起原沿革より浮世繪師の傳を輯めて漏さず

●第五編目次

貨幣秘錄…著者 不詳

徳川氏江戸に鎮せし以來金銀銅の三貨幣に關する事項を類聚記述し簡明核實たること恐らくは當時能吏の手に成れるもの也

三絃考…小山田 興清

百四十余部の書を參用して三味線の起源沿革を論ず雅俗の共に見るべき書なり

物之本江戸作者部類…著者 不詳

江戸時代の小説家の傳を集めたる書多しと雖も此書の詳悉密博なるに及ぶものなし

南留別志の辨…著者 不詳

徂徠翁の南留別志は宏博の辨紙總少からず此書は其統緒の大きなものを辨正したり

寶永落書…著者 不詳

凡そ時世の實相を考察せんには童謡落書に過たるはなし此書は彼の常憲公柳澤濠動の折の落書を集載誦百出笑ふべく怒るべし

遊女考…相場 長昭

凡そ日本古來の遊女に關する條々を諸書より抄出したるものなり古今集に出たる白女以下榮花物語に見えたる別藻に迄る

吉原十二時…石川 雅望

流麗典雅の和文を以て芳原花柳の狀況を描出す已に妙なり挿畫十二面魚屋北溪の筆亦頗る妙本書之を臨模して寸毫を違へず

●第六編目次

神道獨語…伊勢 貞丈

貞丈翁の古學に關く雜見卓抜なるを以て世の神道者國學者の末學の徒の附會妄誕を破す大陽一出百鬼跡を藏すの觀あり

赤倮々…服部 天遊

天遊翁の學は和漢に涉り兼て佛典に通し卓然として一家の見を立つ此書は佛家之謬妄を破するに悉く佛典に據て佛典を證せり

瀨田問答…太田 蜀山

太田蜀山の間に瀨名貞雄の答へたるを蜀山自ら編次したるなり兩翁の博覽精通條々悉く面白からざるなきは勿論の事なり

隅田川考…中神 守節

隅田川を考證せし者前に契冲眞淵明阿あり後に冠山侯三島政行
小山田與清あり守節氏乃ち衆説を參稽し斷ずるに古書と地形を
以てす

相撲傳書…木村 守直

守直相撲行司の家を以て此道の古術より技術上の正變虚實を説
く且一々圖を挿て之を示せり餘人の一知半解の談と遂に同から

洞房語園異本考異…徒 流

前出の洞房語園の拾遺とも云ふべき者なり

賤のおた卷…森山 孝盛

森山氏は吏務に練達し亦風流韻事を事む此書は其少歳より閱歷
する所世事の變遷風俗の盛衰を記して詳悉を極めたり

とはずがたり…中井 甍庵

甍庵は鼎軒竹山の父にして和漢の學に精し此書はよく古文を舞
して己の心を伸べたり

道成寺考…屋代 弘賢

翁の博學能文は世の知る所この書は謡曲の道成寺を考證して復
た餘蘊なし

本朝世事談綺正誤…山崎美成

菊岡沾涼の世事談綺中の誤を正す沾涼氏亦地下に首肯せしなる

浪花の風…久須美 祐雋

大坂町奉行久須美佐渡守は時の名吏たり此書は其炯眼敏腕を以
て大坂の風俗を模寫す

窓の須佐美…松崎 堯臣

松崎氏は才學識を兼有せる人なり此書は廣く逸事遺聞を録する
こと數百餘條に及べり

奈良柴…原 武太夫

武太夫は世に聞えし三絃の名手にして此書的一名を三絃根元記
といふ以て此書を知るべし

猿樂傳記…著者 不詳

猿樂即ち能に關する事項を包羅詳述せり亦藝苑の一佳史なり

そらる物語…三浦 淨心

淨心は小田原北條の道臣にして江戸草創の際江戸に來り此花柳
狹斜の狀を記す蓋有感而然

望海每談…著者 不詳

亦一好隨筆なり多く府下の舊事及び古蹟等に關する談を録す

狛犬考…著者 不詳

狛犬の事を考證する頗る詳博にして具さに衆説を彙輯し末に現
狀を擧て斷案を下せしは實に擇びたりといふべし

●第七編目次

●第八編目次

近世奇跡考…山東 京傳

京傳製作の傍ら古書遺冊を考察して市井間の雜事並に名人の逸事を編輯す一部の絶好開化史なり

●第九編目次

本朝細馬集…土肥 經平

細馬は即駿馬なり此書古來名馬の書冊に見えたるものを抄出して殆ど遺漏なし馬狐董なり

塵塚談…小川 顯道

隨筆にして諸般の事を記す殊に賴朝の墓淺草の馬市堀貫井等の條は尤も異聞を廣むるに足れり

見たる京物語…二鐘亭 半山

半山は江戸の人なり京都に到りて見たるまゝを尙くれさなく記せしものは即此書なり

近世江都著聞集…馬 文 耕

八百屋お七白子屋お熊佐野次郎若衛門等數十人の實傳を記す頗り詳密なり

著作堂一夕話…曲亭 馬琴

凡例に云古人の傳記墓誌奇説等を筆記し圖說證さすべきものあれば摹して抄出す云々

隣の痴氣…原 武 太夫

遊里と劇場との氣習の變遷を叙述す以て都下風俗の隆替を考ふるの具さなすべし

●第十編目次

窓の須佐美追加…松崎 堯臣

前出窓の須佐美の後編なり餘例亦前に同じ

多摩川考…小山田 與清

水道の淵源たる武の玉川の考證なり松廼屋翁の著なれば詳博明瞭は固より論なし

わが衣…曳 尾 庵

文化の頃の人なり自ら見聞する所の關里の薪事或は故老の遺談又自寫本中の異點等を記述す一々圖書を以て示せり

三社託宣考…伊勢 貞丈

軍陣問答…

三書共に神道家の經傳を論破す尙の神道獨語を並看すべきものなり

當世武野俗談…馬 文 耕

寶曆の頃世に聞えし豪商俠客名工崎人その他娼妓乞丐の徒に至る迄凡行事の人に異なるものを歴載す

江戸節根元記…柳 雅

江戸半太夫節より河東節に至る系統傳記並に歌曲の目錄に至る迄詳述して漏す事なし柳雅は河東の名手なれば云ふ所皆信するに足る

●第十一編目次

病問長語…井上金峨

名儒の隨筆にして説く所悉く先者の心法進學の出處に係れり必ず一讀すべきの書なり

兔園會集說…無名氏

屋代弘賢山崎美成曲亭馬琴等の名流十四人相結て兔園會を設け新聞舊話異事詭説各その得る所を綴りて齎らし來りしものを輯む

奥州波奈志…只野綾女

只野氏は女流の文傑なり此書はその生國奥州仙臺に於ける奇事異聞を記載せり

磯通太比…只野綾女

葉月初めの頃磯つたひせんと思ふこゝ有て磯竈の浦より舟にのりて云々起す尤も妙味ある紀行なり二書共馬琴の評註あり

蜚の燒藻…森山孝盛

自ら云新井白石翁の折たく柴の記を見て此文作り侍るべしと思ひ立て筆をとり初しこそ不敵にもおこがましけれ云々以て想見すべし

武藏燈…淺井了意

明曆の大火の事を詳述すその數萬の焚死の狀を叙するが如き酸鼻すべく戰慄すべし

●第十二編目次

牛馬問…新井白峨

白峨翁は通儒にして又神卜の稱あり此書は其隨筆なれば翁の博綜を何ふべきものなり

菅像辨…伊勢貞丈

世に畫く所の菅原道真朝臣の像の大に誤れるを辨す一々正據あり

猿樂沿革考…川崎重恭

茶番の起原沿革を説く先づ筆を神代に起す其學の博き識の高きを以て見るべし

老の長咄…著者不詳

考證あり傳記あり珍談奇話あり以て間を消すべし事を識るべし

麓の花…山崎美成

種彦の用捨箱京傳の奇跡考に配すべき書なり而して典雅ば之に過ぐ

吉原雜話…著者不詳

同く吉原に關する事物を記す而して洞房語園にも似す吉原十二時にも似す並看すべし

大盡舞考證…無名子

二朱判吉兵衛の大盡舞の娼歌を考證す無名子は蓋し京傳なり末に溪翁和山其他の補考あり精博喜ぶべし

近世事物考

久松 祐之
祐之は幕府の旗下にして山東京山と交善し蓋し同一好事の人なり此書俗習の起原を記せり

八木の話

北越 逸民
大坂堂島の米會所の起原沿革規定習慣等細大織述して毫も餘蘊なし經濟家必讀の書なり

内藤叟先生校訂

少年日本文庫

全部拾二卷
洋裝頗美本
壹册紙數
四百二十頁

正價 壹册金貳拾五錢 六册金壹圓三十五錢 全

本書十二卷包藏する所の書九十三部、悉く名儒碩學偉人傑士の手に成る、日誌隨筆史傳考證より論說講義辨釋批評の類に羅する所の書目を掲げ加ふる其書の大要を以てし且文學史傳政治哲理宗教經濟地理修身國防制度博物語學の十二門に大別して索引に便す、博雅君子幸に閲讀を賜へ

第一編目次

正學指掌

先生曾テ洛陽ノ書ヲ讀ミ其正學タルヲ知テ此書ヲ著シテ之ヲ辨シ兼テ讀書詩文ノ事ニ及ブ講學者必讀ノ學也

閑餘錄

南川 金溪
此書ハ多ク名儒ノ言行出處遊退ノ世ニ傳フベキ者ヲ錄シ間亦諸ノ考證ヲ載ス尤モ有益ニシテ趣味アル書ナリ

熊澤先生事跡考

清水 臥遊
著者ハ備前ノ人ニシテ其鄉ノ先輩蕃山先生ノ事跡ヲ詳述シタルモノナリ先生ノ傳多キモ此書ニ及ブモノナシ

常山樓筆餘

湯淺 常山
先生ノ常山紀談ハ世ノ善ク知ルトコロナリ此ノ書ハ文武ノ談ヲ併載シテ引據精博識見卓拔特ニヨロコブベシ

東潜夫論

帆足 杏雨
杏雨先生ハ文武ノ通儒也此書王室霸府諸侯ノ三項ニ分テ天下ノ經綸ヲ論ズ博引廣涉悉ク實用ノ言ニ非ルナシ

年成錄

中井 履軒
年成トハ三年而有成ノ語ニ取ル滔々數千言皆經世濟民ノ事而ソ此書從來其家ニ秘シテ世ニ公ニセザリシ者也

第二編目次

太平策

物 徂徠
先生最モ心ヲ經綸ニ用ウ此書ノ如キモ天命ニ應ジテ作ル所當時ノ勢情ヲ計リ將府ノ能ク行フベキ所ヲ具陳ス

救急或問

安井 息軒
此書幕府政治ノ衰タルヲ憂ヒテ其ノ救急ノ方術ヲ論ズ議論正確識見精到尤モ以テ先生ノ眼光ヲ視ルベキ者ナリ

戊戌夢物語 ……(政治) ……高野長英

高野氏華山翁ト蘭人風説書ヲ見テ大ニ憂ル所アリ此書ヲ著シテ
竊ニ世人ヲ警醒セントシ終ニ奇禍ヲ得テ死ス

夢々物語語 ……(政治) ……佐藤元海

佐藤氏モ亦渡邊華山高野長英一流ノ愛國家タリ故ニ高野氏ノ書
ヲ見テ鬱勃禁スル能ハズ此書ヲ述テ志ヲ言フ

慎機 ……(政治) ……渡邊華山

此三書亦前二氏ノ書ノ流亞ナリ翁奇傑ヲ以テ奇憂ヲ抱キ遂ニ奇
禍ニ罹テ死ス今其時ノ口歎及ヒ罪案ヲ附刊ス

舌舌小或 ……(政治) ……渡邊華山

此三書亦前二氏ノ書ノ流亞ナリ翁奇傑ヲ以テ奇憂ヲ抱キ遂ニ奇
禍ニ罹テ死ス今其時ノ口歎及ヒ罪案ヲ附刊ス

初學課業次第 ……(文學) ……佐藤一齋

先生ノ大儒タルハ世ノ皆知ル所ナリ此書ハ初學ノタメニ其讀書
ノ次第ヲ指示ス丁寧親切亦餘蘊アルコトナシ

實用館讀例 ……(文學) ……平山子龍

先生少シテ昌平齋ニ入り後兵學武藝ヲ以テ名アリ此ノ書ハ入門
諸士ノ爲ニ學ヲ爲スノ方ヲ示シタルモノナリ

文會雜記 ……(文學) ……湯淺常山

先生世ノ學士文人ト交リテ廣シ此書其談話ヲ記シ時ニ時政逸事
ニ及ブ皆當時ノ目見耳聞スル所ニ非ルハナシ

●第三編目次

詩文國字牘 ……(文學) ……物徂徠

先生ガ學問ノ事及ヒ詩文ノ大躰ヲ論セラレタル書牘ヲ集ム事ヲ
獨得啓發ノ上ニ妙處アルコトヲ言ハレタル者也

形影夜話 ……(哲理) ……杉田鶯齋

先生ハ學漢洋ヲ兼テ識見精高ニシテ醫人中ノ傑ナリ此ハ其隨筆
ニシテ醫學的ニ哲理ヲ説ケリ一種ノ精彩アリ

經世秘策 ……(政治) ……本多利明

徳川氏ノ末ニ當テ四大急務三大慮アルヲ説ク見識英邁議論博大
決シテ凡庸人ノ夢想タモ能ハザルトコロナリ

仁義略說 ……(哲理) ……朝川善庵

此書古言古書ニ據テ仁義二字ノ要義ヲ解説ス古來紛々トシテ歸
一セザル二字ノ定義ヲ發揮シテ瞭トシテ如見火

夜舟物語 ……(宗教) ……殿村常久

此書佛法ノ起原來由ヲ言ヒテ其妄ヲ破ス言少ナクシテ意完ク論
畢クシテ讀深シ亦亦傑々ト出定笑語ノ流亞ナリ

千代のため ……(史傳) ……作者不詳

此書徳川家康將軍宣下ノ儀式ヲ記シテ其儀式ノ故實義解ヲ作リ
シ者ナリ濃故幽顯ル明據アリ稀有ノ書ナリ

授業編 ……(文學) ……江村北海

學者受業ノ要ヲ列舉シテ學問ノ方ヲ示スコト至テ親切當時儒學
ノ授受修習如何ヲ知ランニハ此書ニ如ク者ナシ

●第四編目次

幼學問答…(文學)…伊勢貞丈

先生學問ノ廣識見ノ精世ノ共ニ推ス所ナリ初學ヲチ爲スノ順序方法ヲ示ス丁寧ニシテ復餘蘊アルナシ

間合早學問…(文學)…大江玄圃

此書亦初學ヲチ爲スノ方ヲ示スノ頗ル簡明極ム文辭平易樸實ニシテ用意尤モ深切多ク得易カラザルノ書ナリ

聲文私言…(文學)…吉田令世

先生學和漢ヲ兼チ文藻ニ長シ水戸烈公ノ侍讀タリ此書國典ヲ學ブモノハタメニ其要ヲ説ク座右必携ノ書ナリ

齋庭之穗…(經濟)…著者不詳

此書經國理民ノ大策ヲ論シテ明快喜ブベシ殊ニ人民貧富盈耗ノ依ル所ヲ説クカ如キ頗ル詳悉ニシテ實用アリ

燃犀錄…(文學)…服部天遊

此書ハ多ク世ノ學者ノ紕繆ノ説ヲ指摘シテ殊ニ徂徠ノ非ヲ辨破ス論スル所一々微證アリテ辨說頗ル的確ナリ

本與錄…(哲理)…岡白鉤

此書ハ先生ガ其君蓮池侯ニ上ル所ナリ先生ノ學實用ヲ期ス故ニ書中ノ言一モ浮誇虛妄ノ字ナシ尤モ尙ブベシ

雲室隨筆…(史傳)…雲室上人

上人學ヲ好ミ詩畫ヲ善クス此書ハ當時ノ文人墨客其他交友ノ言行ヲ記ス以テ當時文人風彩ノ一斑ヲ伺フベシ

護園談餘…(哲理)…物徂徠

先生ノ經綸ノ才アリテ又兵學ニ達ス此書ハ即其獨得ノ見ヲ以テ所謂修身齊家治國平天下ノ要ヲ論斷シタル者也

四言教講義…(哲理)…三輪執齋

四言ノ教ハ即王陽明學ノ本旨ナリ先生王學ニ深ク達シ一家ノ見ヲ立ツ王學ノ門端ヲ伺ハシ此書ニ過ルナシ

新蘆面命…(文學)…著者不詳

元祿ノ頃ノ人ノ日記ニシテ曆算ノ名家保井春海ノ言ヲ面ノアタリ記シタル也末ニ内藤先生ノ辨妄五條ヲ附ス

●第五編目次

松平豆州言行錄…(史傳)…著者不詳

松平信綱朝臣ノ才畧ハ兒童走卒モ之ヲ知レリ此書ハ朝臣ノ言行ヲ叙述シテ曾テ他書ニ見ザル所ノ者少カラズ

白河樂翁公傳…(史傳)…廣瀨典

樂翁公ハ江戸三百年間隨一ノ賢相也此書ハ公ノ儒臣廣瀨氏ノ著ナレバ他ノ諸書ノ傳聞ヲ錄スル者ノ比ニ非ズ

大學或問…(經濟)…熊澤蕃山

此書ハ君天職ノ事ヨリシテ金穀農林貿易宗教々育ノ事ニ論及ス自ラ時務ト言フモ其實ハ百世不磨ノ卓言ナリ

徂徠答問書…(哲理)…物徂徠

此書ハ人ノ問ニ答ヘタル書讀チ類聚シタルモノニシテ尤モ以テ先生ノ才量器識ノ超凡ナルヲ見ルニ足ル也

詩學逢原…(文學)…祇園南海
先生ハ一代ノ詩宗ニシテ我邦ノ李杜ナリ此ノ書ハ初學ノ爲メニ
作詩ノ方ヲ示スコト尤モ親切著明ヲ極メタリ

魯西亞志…(地理)…桂川甫周
魯國ハ我邦ト僅ニ一葦帶水ヲ隔ツルノ隣國ナルニ其風土ヲ知ル
者少キハ抑モ何ゾヤ此書實ニ志士必讀ノ書ナリ

鎖國論…(政治)…ケンブル
我邦ノ人情風土上ヨリ其鎖國政畧ノ利害得失ヲ論ズ往昔獨逸人
ノ著ト雖モ今ノ我邦人タルモ必讀ノ書ナリ

第六編目次

學問源流…(史傳)…那波魯堂
此ノ書ハ我邦漢籍ヲ講ズル者ノ源流ヲ論シテ歷々證徴アリ文學
ニ志アル者ノ必ス一讀セザル可ラザル書ナリ

葬祭辨論…(宗教)…熊澤蕃山
世人葬祭ノ禮ニ於テハ浮屠ノ說ニ習ヒテ皆佛禮ニ順ヘルノ惑ヲ
正サントテ此ノ書ヲ著ハサレタルモノナリ

漁村文話續話…(文學)…海保漁村
先生ハ太田錦城翁ノ高足ニシテ經術ニ精シク文辭ニ達セリ此書
文ヲ作ルノ要ヲ示シテ尤モ玩味スベキ書ナリ

漁村文話…(文學)…海保漁村

講習餘筆…(文學)…中村蘭林
先生ハ元醫人ナリ此學術文章ニ深キヲ以テ特命儒トナル此書ハ
即榮轉ノ歳ノ著也經書歷史ノ讀方等ヲ論セリ

正享問答…(政治)…三輪執齋
先生モ亦醫ニシテ學和漢ヲ綜ア此書ハ當時執政ノ諸侯ノ爲ニ治
民ノ要旨ヲ述ル所以テ物質スル所ヲ見ルベシ

湯士問答…(史傳)…湯淺常山
湯淺氏ハ漢學ニ通シテ武チ好ミ土肥氏ハ和學ニ深ク故實ヲ知ル
此書ハ常山ガ我邦ノ典故ヲ問ヒタル問答書也

第七編目次

知止小解…(哲理)…中江藤樹
近江聖人中江先生陽明學ノ蘊奧ヲ探リテ知止歌一編ヲ述ブ而シ
テ門生コレガ解ヲ作リシモノ即チコノ書ナリ

文會雜記附錄…(文學)…湯淺常山
第二編ニ收メタル文學雜記ノ附錄ナリ本書ト同シク當時ノ聞見
ヲ錄スルモノ湯淺氏家郷ノ遺談逸聞異事多シ

貝原益軒家訓…(修身)…貝原益軒
貝原先生ハ博學精記類ル著述ニ富ム殊ニ意ヲ道德ニ注キテ十種
ノ訓アリ此書即十種ノ一ニシテ始範ヲ垂ル者

伊勢貞丈家訓…(修身)…伊勢貞丈
伊勢先生モ亦博識洽聞尤モ識見アリ著書ノ多キ近古名家中蓋シ
及ブ者少シ此書ハ後世子孫ノ爲ニ垂訓スル者

作文志

志 鼓 鼓
……(文學)……山本北山

徂徠李王ノ修辭ヲ唱ヘテヨリ天下翕然之ニ和ス北山先生之ヲ闢キテ餘力ヲ殘サス詩學ノ眞ヲ得ル先生ノ功也

樂言錄

……(史傳)……中山 精

米澤ノ名相蒞戸先生ノ言行ヲ錄ス中山氏號ハ桑石丹後宮津侯ノ家臣ナリ本書解題ニ誤テ米澤ノ人トス今正焉

北地危言

……(國防)……大原小余吾

大原氏ハ處士ニシテ頗經國ノ才アリ當時執政ノ知遇ヲ得テ獻啓スル處多シ此書蓋シ北邊營國ノ警ノ爲ニ著ス

名家年表

……(史傳)……川喜多真彦

慶長四年ヨリ安政元年マテ二百五十六年間ノ國學者歌人文人俳諧家小説家狂歌狂句者流ノ生卒著作ノ年表也

●第八編目次

白鹿洞學規集註講義

……(文學)……淺見 綱齋

此書ハ朱子ノ白鹿洞學規ヲ山崎闇齋先生集注シ先生ノ高弟淺見氏ノ講說セシ者尤モ朱學ノ要ヲ窺フニ足レリ

湖遊從之

……(博物)……太田南畝
……(木村世肅)

蜀山人ノ問ニ木村氏ノ答ヘタル者木村氏ハ即有名ナル浪花ノ藥師葺堂ナリ兩博覽家ノ問答ナレバ博涉思フベシ

時文摘

……(文學)……村田春海

先生ノ博學淹殊ニ國文ノ大家タルハ天下ノ推ス所ナリ此書ハ時文ノ紙綴ヲ摘テ一々其訣ヲ辨シタル書ナリ

南海詩訣

……(文學)……祇園 南海

先生ノ詩學ニ深キヲ以テ詩ヲ作ルノ要訣ヲ示シタル者ナリ前ノ詩學逢原ト併讀セバ作詩家ニ益スル大ナラン

經世秘策補遺

……(政治)……本多利明

第三編ニ收メシ經世秘策ノ補遺ニシテ當時憚リテ世ニ公ニセザリシ書ナリ併看シテ益々ソノ眼識ヲ知ルベシ

蝦夷行記

……(地理)……作者 不詳

元至ノ頃蝦夷ニ赴キタル紀行ナリ山川風土ヨリシテ物産方言等ニ至ルマテ其見聞セシ所ハ細大記シテ洩サズ

夢かたり

……(政治)……作者 不詳

天明ノ頃世ヲ憂フル士ノ靈夢ニ托シテ世ヲ諷シ政ヲ論シタル書ニシテ識見精到喜フヘシ後樂翁公ニ獻スト見ユ

●第九編目次

聖學問答

……(哲理)……太宰 春臺

此書ハ先生ガ其特得ノ見ヲ以テ所謂聖門ノ學ノ要領ヲ述ベタルモノニシテ其一種獨造見解アルヲ見ルベシ

知命記 (哲理) : 中村 成昌
知命トハ五十知天命ノ謂ニシテ五十歳ノ時ノ著ナリ我邦ノ大道ヲ論スルノ頗ル明備ニシテ簡盡ス亦是好一書

文章指南 (文學) : 石上 翁
石上翁ハ何人ナリヤ未詳但書中我國文ノ事ヲ論スルコト尤モ精切ニシテ能ク要ヲ得タリ蓋シ一大家ナルヘシ

東江書話 (書學) : 澤田 東江
先生ハ二王ヲ泰シテ一家ヲ成ス其書道ニ精キヨ當時推シテ以テ無比トナス此書ハ博學能書ノ一端ヲ見ルヘシ

仕學問答 (文學) : 著者 不詳
此書經國ノ要ヲ説キ兼テ經書歴史ノ事ニ及フ其見識ノ高議論ノ卓決シテ尋常學士ノ及フ所ニ非ス有益ノ書也

先哲年表 (史傳) : 作者 不詳
永祿以降文政ノ末ニ至ルマテ儒者漢文家ノ生卒及書籍ノ板行等年月ヲ以テ次第ス名家年表ト配譯スヘキ者也

第十編目次

幼學指要 (文學) : 岡田 寒泉
此書ハ名儒岡田先生方專ラ學者ノ讀マサルヘカラサル典籍ヲ擧ケテ一々ソノ大要ヲ論述セラレタルモノナリ

神學承傳記 (史傳) : 岡田 磐齋
此書ハ有名ナル神道家吉川惟足ノ事迹ヲ記述セルモノニシテ所謂吉川學ノ由來ヲ窺フニ餘クヘカラサル書也

改元物語 (史傳) : 林 春齋
此書ハ弘文院學士林春齋先生ガ其父道春先生以來毎ニ改元ノ事ニ預リシ顛末ヲ記ス以テ歴史ノ缺ヲ補フヘシ

獻芹微衷 (國防) : 松本 胤通
松本氏ハ幕府ノ士ニシテ海防上研究スル所アリ藤田東湖ト親シキヲ以テ此書ヲ作リテ水戸烈公ニ上ル公嘉賞ス

駁朱度考 (制度) : 物 徂 徠
先生幕府ノ命ヲ受テ度皇衡考ヲ撰シ又明人朱氏ノ律學新說ヲ駁ス即此書ナリ度皇衡ヲ研究スル者必讀ノ書也

翹楚編 (史傳) : 荳 戸 太華
此書ハ米澤ノ名君鷹山公ノ事跡ヲ荳戸先生ノ記述シタルモノナリ先生ノ事跡ハ樂音錄ニ精シ第七卷ニ收メリ

長頭丸隨筆 (文學) : 松 永 貞德
道遙軒松永貞徳ハ和歌ヲ細川蘭齋ニ學ビ晩ニ俳諧ヲ以テ鳴ル此書ハソノ文辭ニ關シタル見聞ヲ隨記セルナリ

天竺渡海物語 (地理) : 天竺 德兵衛
高砂ノ人徳兵衛老後ニ及ヒ壯歲貿易ノ爲メ印度ニ渡リタル折見聞シタル事實ヲ記ス天竺ノ號ハ即之ニ因テ起ル

光臺一覽 (制度) : 伊 達 隠士
隱士ハ何人ナルヲ知ラス江戸時代皇室ノ制度典故ヲ記スルノ頗ル詳悉ニシテ餘人ノ得テ知ラサル所ノ事多シ

●第十一編目次

足土根記……(語學)……若林強齋
 和歌ニ父母ノ事ヲ往々たらちねトヨメル事ノ考證並ニたらちねト云ヘハ語ノ起原ヲ論定スルヲ精傳喜フベシ

たむけの説……(語學)……同
 此モ亦簡書ト同シクたむけトイヘル國語ノ由來ヲ考證論述シタルモノニシテ國語ヲ研究スル者必讀ノ書ナリ

作文初問……(文學)……山縣周南
 山縣氏ハ徂徠門ノ一英俊ナリ此書初學漢文ヲ作ルノ法ヲ示スモノ以テ徂徠文學ノ一斑ヲ窺フニ足ルベキナリ

書學……(文學)……平東郊
 東郊平氏ハ蓋シ書ニ精シキ者ナリ此書々道ノ要ヲ論シテ頗ル肯綮ヲ得タリ東江源氏ノ書讀ト併讀スヘキ書也

三餘叢談……(文學)……長谷川宣昭
 文學的ノ隨筆ニシテ重モニ我國ノ言語ニ關スル事ヲ記ス頗ル取ルベキノ見少ナカラズマタ一頁書ト云フヘシ

釣船舶物語……(政治)……深潜隱居
 此書ハ嘉永安政ノ頃國家多故ノ際ニ在テ時事ヲ痛論シタルナリ而シテ言ヲ品川沖流翁ノ談ニ托シ文辭頗ル婉約

海道くたり……(史傳)……菅沼貞俊
 文祿四年豊臣秀吉カ小田原征伐ノ模様ヲ目撃シタルママチ道中記跡ニ綴リタルモノナリ頗ル珍書ト云フベシ

南北開拓意見……(地理)……水野筑後守
 二氏ハ幕末ノ俊傑也一人ハ小笠原島一人ハ北海道ノ開拓ヲ計畫ス敬滲潔泊具極艱苦以テ地理歴史ヲ補フベシ

馬瘦篇……(哲理)……荳戸太華
 先生ハ文武ノ名臣ニシテ能人ヲ知ルノ鑒識アリ此書ハ即人ヲ見ルノ法ヲ述ヘテ其君ニ上ル者眞ニ照覽ノ明鏡也

●第十二編目次

無鬼論辨……(哲理)……山片子蘭
 山片子ハ大坂ノ商估ニシテ中井履軒翁ニ學ビ識見尤モ卓拔ナリ此書無鬼論ヲ主張シテ鬼魅ヲシテ逃竄セシム

秋齋閑語……(博物)……多田義俊
 廣ク社會百般ノ事物ニ就テ考究セシ事ヲ記述シタル隨筆ニシテ頗ル有用ノ件少ナカラズ亦學者必讀ノ書ナリ

秋齋閑語評……(博物)……伊勢貞文
 然レトモ多田氏ノ學往々糾纏ヲ免レサルヲ伊勢先生ノ博識精通ヲ以テ一々其批總ヲ指摘辨正セラレタル也

田園地方紀原……(制度)……朝川善庵
 先生ハ學術淹博尤モ心ヲ經濟ニ用フ此書我邦古來ノ田園ノ制度ヲ考究スルヲ詳明的確シテ尤モ有用ノ著ナリ

江戸文學志略……(史傳)……内藤耻叟
 江戸時代三百年間ノ文學歴史ニシテ精明該盡復々餘蘊ナシ蓋シ近時稀有ノ好著ニシテ亦學者必讀ノ要書ナリ

佐々木弘綱、佐々木信綱兩先生原註校訂

日本歌學全書

全部拾貳卷
洋裝頗美本
壹册紙數
四百貳拾頁

正價 壹册金貳拾五錢 六册金壹圓參拾貳錢 全
部十二册金貳圓五拾貳錢 郵稅壹册六錢 少

繚紗三千載、古今を一貫して情致の眞を發揮せらるる神代歌なり、參
識高相疎じて曰く、是のみは人の國より傳はらるる神代歌なり、
敷島の道一蓋し和歌は山秀水清の間に生育せる我々大和民族の
固有にして、神出する其の道倍々壯人に我が萬世一系の皇統と
共々、卓然宇内に冠絶す、和歌の態たる、簡にして粹、清秀、陶
玄、典雅、麗婉、入て得ざるも、通じて達せざるもなし、
立に歌人一唱の詠は天地を動し、萬古を浸瀉す、本館歌學の書は、
に類はれざるを惜み、撰集九部、家集十五部、歌合百首各三部、
總て三十部を蒐め、其の註釋を佐々木弘綱、同信綱の二先生に
請ひ、之を十二卷として出版大成せり、二先生の當代歌學の名
匠たるは世の普く知る所なり、夫れ撰集は代々の勅撰なり、家
詞見る一家の歌風、作者の觀念を觀るべきは、歌合は優劣の評
ものなり、故に此の書一たび出で、三千年來和歌の光輝を發輝
し、名家巨匠の眞采を發露すべし、乃ち一部の歌學全書に、我
が大和民族の精神を大成せるものさいふべし、

第一編 目次

前内大臣三條實美公題辭
從三位子爵福羽美靜公序文

●古今集 延喜五年醍醐帝の勅を奉し貫之の甥恒友則
忠岑四人の撰へるものなり我園勅撰歌集の嚆

矢にして其歌の優美典雅なるは、貫之家集は、貫之
今又喋々するを要せざるべし、●貫之家集 自撰の家
集にして延喜承平の比の歌人々々の贈答等をのす貫之は人麿と共
に歌聖と稱せらるる人なり、故人其歌の高雅なるは又言をまたざ
りな、●躬恒家集 貫之と甲乙わきまなく歌術なり、
忠岑家集友則家集 共に世にすぐれたる一家の
もの撰者の四家集をよくみ味ひみなほささりうる所多かるべ
きものぞ

第二編 目次

從一位公爵近衛忠熙公題辭
文學博士小中村清矩先生序文

●後撰集 古今集につぎし勅撰集にて村上天皇の天曆
時文の五人を桐壺に召し選ばしめ給へり、もとより盛なる御
世の風雅に其歌のめてたきことはいふまでもなかるべし、
●元輔家集 元輔は深養父の孫清少納言の父にて順徳院も
なり、●能宣家集 能宣は祭主頼基の男にて子の輔親女
なり、●能宣家集 順は學和勢の和一家鈔共巻の歌にすぐれて
なり、●順家集 順は竹取物語うつは物語も此人の作なり
さ云ふは、この學の殊に家集中に、天地の歌なり、
●祿歌合 村上天皇の天德四年三月清涼殿に行はれ、歌を
記ありて其の作法人々の舉動音楽の御座の始なり、終に假見歌を
か如く記されたれば、なから其歌合の席に臨む如き心地せら
るゝなり

●第三編 目次
從一位侯爵嵯峨實愛公題辭

●古今集 延喜五年醍醐帝の勅を奉し貫之の甥恒友則
忠岑四人の撰へるものなり我園勅撰歌集の嚆

從六位稅所教子君題詠

拾遺集 給へりとも、花山法皇の御撰なりともいへり。この歌に至りては、古今後撰に古來の秀をあつめられ

任卿集 臣頼忠公の長子にて、人となり、聰明にして、和漢の學にすぐれ、能書、さきこゝ高く、其餘管絃等の諸藝にわたらぬ事なく、殊に和歌は巧にして、

紫式部集 西院の侍女、紫式部の歌集なり。式部は才德兼備の女にして、

清少納言集 清少納言の歌集なり。清少は才智學問ともにすぐれて、歌も亦その家流をくめり。

第四編 目次

從二位伯爵東久世通禧公題辭
文學博士黒川眞頼先生題詠

後拾遺集 は、白河院の應徳二年九月十六日、中納言通俊卿追遷せられしを、後また直されたる處多し。この集は當時種々の撰選ありしを、

相摸集 中宮連源頼光朝臣の女、入道一品宮の女房、相模が歌集なり。相模歌にすぐれたる事は、順徳院の譽め給ひし詞にて、知られたる。

高陽院歌合 は、堀河院の寛治八年、京極前太政大臣師實公の高陽院にて催し給ひし歌合にて、判者は公任卿と共に並び稱せられし、歌仙大納言經信卿なり。その歌の如何又見るべきなり。

第五編 目次

從二位伯爵柳原前光公題辭
衆議院議員美濃部貞典先生序文

金葉集 前木工頭源俊賴朝臣の撰なり。後醍醐朝臣は父經信卿につきて歌の名匠なり。此の撰集、元より高雅、

堀河百首 は、堀河院天皇の御代にて、時々の歌人を各なれば、歌の如何はまたいふをまたさざるなり。

第六編 目次

從三位男爵千家尊福公題辭
正五位子爵水野忠敬公序文

千載集 は、後鳥羽院の院宣によりて、入道俊成卿の撰にて、給ひし者なり。後賴は歌仙の名匠なれば、その歌の巧拙かれ、いふまでなき高雅流暢なり、

永久百首 は、鳥羽院の永久四年に、時の名ある歌人七人に、各一首の歌を奉らしめ給へる者なり。當時の歌人七人に、各一首の歌を奉らしめ給へる者なり。當時の歌人七人に、各一首の歌を奉らしめ給へる者なり。

忠度集 は、武人陸摩守忠度の歌集なり。忠度は武人にして、皆人のよく、最も歌道に秀でたる事、

後京極自歌合 は、後京極攝政長經公のよみ給ひし歌を、自百番につがひて、後鳥羽天皇の建久九年に、俊成卿の判を乞はれし者なり。

新古今集 は、土御門天皇の元久二年三月、後鳥羽院の院宣によりて、參議右衛門督通具、

第七編 目次

從三位伯爵松浦詮公題辭
東宮侍從正五位子爵勸解由小路資題公序文

大藏卿有家、右近中将定家、前上總介家隆、右少將
雅經等の撰集なり。歌の花麗なるを知らるべし。

●長明
家集は賀茂社の禰貢、鴨長明の歌集なり。長明は後鳥羽天
家皇の時、和歌所の歌人となりしを思へば、その歌に巧
なりしや知る

●自讃歌
は、後鳥羽天皇の御時、時の歌
べきなり。十首を奉らしめ給ひ、帝の御歌十首をも添へさせ給へり。され
ばその歌の巧妙は、とまらぬといふをまたさるなり。

●第八編目次
正五位子爵小笠原長生公題辭
東宮侍從子爵大宮以季君序文

●山下集
は、後鳥羽寺左大臣定實公の家集なり。公常
そは、この歌集により、秀歌も殊の外多し。西
りて知らるべし。

●山家集
は、西行法師の家集なり。西
の學び得たき程なり。歌は人麿貫之につ
きての歌聖といへば、その歌や元より妙。

●頼政集
は、源
三位頼政の歌集なり。頼政は弓馬の道に達し、また和歌に通ぜ
り。人口にもてばやさる、者極めて多きは、この道の巧妙。

●金槐集
は、鎌倉右大臣實朝公の家集なり。實朝公は
み給ひ、歌は若き時定家卿に從ひ給ひしや、後に萬葉の古雅
をさり給ひ、その調のけ高きは、實朝公の最も得意とせられ
たる處なり。

●第九編目次
從一位公爵毛利元徳公題辭
大教正本房豐頼君頌歌
從一位侯爵正親町實徳公題辭

●萬葉集(全三冊)
その載する處極めて古くし
て、雅調いふべからざる味

あるは、これ歌の本體にして、歴史の裏面さといふべき、形骸
片影交々その裡にひそめり。

●第十二編目次
正四位子爵前田利徳公題辭
衆議院議員中村信夫君序文

●無名抄
は、鴨長明
の著す處

●新學異
見
は、香川景樹翁、賀茂眞淵翁、村田春海
の著す處

●調の直路
は、
田知紀翁の著す處。これ皆歌學に就きての注意意、見等に
て、歌をよまんと思ふ人々は、座右に供へべき珍書なり。

●歌ふくろ
は、富士谷成章主の
著す處

●見
は、香川景樹翁、賀茂眞淵翁、村田春海
の著す處

●調の直路
は、
田知紀翁の著す處。これ皆歌學に就きての注意意、見等に
て、歌をよまんと思ふ人々は、座右に供へべき珍書なり。

●歌ふくろ
は、富士谷成章主の
著す處

●見
は、香川景樹翁、賀茂眞淵翁、村田春海
の著す處

●調の直路
は、
田知紀翁の著す處。これ皆歌學に就きての注意意、見等に
て、歌をよまんと思ふ人々は、座右に供へべき珍書なり。

●歌ふくろ
は、富士谷成章主の
著す處

●見
は、香川景樹翁、賀茂眞淵翁、村田春海
の著す處

●調の直路
は、
田知紀翁の著す處。これ皆歌學に就きての注意意、見等に
て、歌をよまんと思ふ人々は、座右に供へべき珍書なり。

●歌ふくろ
は、富士谷成章主の
著す處

●見
は、香川景樹翁、賀茂眞淵翁、村田春海
の著す處

●調の直路
は、
田知紀翁の著す處。これ皆歌學に就きての注意意、見等に
て、歌をよまんと思ふ人々は、座右に供へべき珍書なり。

傳家明治節用大全

全壹册洋裝
大判背皮金
文字入美本
千四百餘頁

正價 金二圓五拾錢 通運料貳拾五錢

口繪(彩色) 三都風景並 風俗畫 三島蕉窓 武内桂舟
御宮城眞景寫眞版 日本并に 萬國地圖數葉挿入
富岡永洗 寺崎廣業 密書

節用の書、古來出版せられたる者數十種、皆な能く日常必需の
事項を網羅し之を坐右に備ふれば事として辨せざるなく、機
臨み變に應じて望む儘に用を達する。さるの物を採ぐる。如
し、然れども明治の聖世を爲り、泰西の新事物をして採用する
と日に多く、人間活生の必要事項は盡く面目を改む、而して其

明治新天地の森羅萬象を網羅し、日常坐右の寶典と爲すべき大
 新用集は未だ出てす、是れ昭代の大缺典なり、弊館久しく之を
 感み、當代知名の諸大家に囑りて材料を収集すること此に數年
 漸やく編次して此の書、爲す、皇主古今御歷代の系統、武家の系
 圖、利漢洋古今有名人物の傳記を如くし、衣服の裁縫、飲食の系
 料理、各種の製造法、家庭の構造、室内の裝飾、庭苑の排置等
 勿論、男女禮式、家政整理、女子手藝の方法、香、花茶湯、
 音曲、等の諸藝、農、工、商業、水産、養蠶、製茶生産業の方法、
 男女日用公私用文例若くは歴史、地理、文學、理化學、事物起
 元、神社佛閣、名所舊蹟の由來、詩、歌、連俳、文章の作法和
 漢洋宗教の由來、開基者の傳記等總べて人間の處世上知るを要
 する事、一ととして備はらざるなく、眞に古今來唯一の大節用
 集、全圖大版一千四百頁の中に集めて漏さず、江潮諸彦、請ふ
 陸續愛讀を賜へ。

木村一步先生編著

教育辭典

正價 金壹圓六拾錢 通運料貳拾錢

全壹册洋裝
 大判背皮金
 文字入美本

泰西文明の諸國皆教育辭典の書あり況く教育上萬般の事項を輯
 集し以て世の公衆に便す就中教育家坐右の寶典と爲す我國特り
 未だ此事なし蓋し昭代の缺點なり文部省曾て茲に見るあり往年
 木村一步氏に囑托し教育辭林を翻譯せしむ惜い哉中ごろ業を廢
 し其成功を見る能はず世舉て之を遺憾とす、木村氏即ち獨力其
 業を繼承し且つ文部省に於て輯むる所の材料を請ひ受け纂定編
 次拮据經營茲に十數年今其業全く成り弊館に於て出版すること
 いなれり、編次の事項は我國古來教育に關する制度沿革實況よ

り近く維新以後官公私立各學校の由來經歷現況及其統計に勿論
 世界各國の教育沿革其制度及現況各種學校の組織性質及び學術
 百科の概要より教育、教授、練習、訓練、管理法に關する歐米
 諸大家の論說に至る迄具さに網羅し終りに和漢洋古今教育家の
 傳記を輯め且つ和漢洋紀元以來の年表を掲げて年代の對照に
 便す大本美裝一册凡そ一千頁、内外古今教育に關する事項は集
 めく之を大成し詳悉正確校正殊に嚴密を極む實に近世無比の
 大著なり全國公私立の中小學校は勿論教育に志ある諸君は必ず
 座右に一本を備へて非常の洪益を享け賜ふべし

美妙齋 山田武太郎先生著

萬國人名辭書

正價壹圓金壹圓參拾錢 通運料三拾錢

全二册洋裝
 背皮金字入
 堅牛頗美本

本書上卷は西洋各國及支那の人名を網羅せしものにて西洋は英
 米獨佛埃露瑞葡端諾拉刺等皆洩らさず支那は太古より近代に至
 る迄其必要なるは悉く收め加之西洋の方言各其言語の發音各國
 種に引き得るやうにせし等其各各種に周到なる注意尋常に非ず
 下卷は日本古今の人名を盡くし荷も參考を要すべき價値あるも
 のに大抵收めつ凡て上下兩卷共に人物の撰擇其傳歴の繁簡等は
 編纂に方り最も注意を加へしものにて上卷には別に支那歴史世
 譜下卷には日本歴史世譜を添へ普通通の年表の及ばざる處までも
 詳々にしたれば考證索引の利便實に全く備具せる好者にて而も
 廉價無比なるは亦言ふ迄も非ず特に日本に於て此の如く和漢洋
 三國を網羅したる人名辭書他に無きより考ふるも目下苟も文筆
 に従事する人士に取りては無二の好伴侶なり

内山正如先生編纂

新撰日本節用

正價 金七拾錢 郵稅 拾貳錢

全壹冊銅刻
紙入頗美本
クロス表紙
金文字入

いるは字引節用集の必要にして、其便利なるは、古今世人の知る所、今更喋々を要せず。然れども文化日進の新世界に處するにば、従前の古節用のみにては、大に用語の不足を感じ、便利を欠くを如何せん。是れ本館が、新に此の節用を撰び、其需に應ぜし所以なり。而して本書には従前の用語は素より論なく、現今社會に應用する、一切の用語、熟語、通語等を増加し、其の部類を言語、天地、人倫、衣食、動植物、器財、姓氏、地名の諸種に分ち、舊書の枉撰を訂し、字體を眞草の兩様に分書し、左右に音訓を施し、加ふるに、卷首に、種々貴重なる一覽表を掲げ、地圖『十體千字文』を附せしを以て、其使者用の至便至益なる、實に寸時も座右に闕くべからざるの、要書と謂ふ可きなり。

三島中洲先生校閱

山名善讓先生訓點

資治通鑑

全部二百九十四卷合拾
紙數七十冊
紙數五千五百餘枚

正價 全部 金九圓 通運料 五拾錢
温公の資治通鑑 周の威烈王に始まり 兩漢六

朝、唐を経て五代に至り、後周の顯宗に終るまで、歳を經る一千三百餘年、冊を重ぬる二百九十四卷、治亂興亡隆替盛衰の跡、炳然として火を見るが如し。左國史漢の後、實に獲難き良史なり、校正綿密、印刷鮮明、從來行はるゝもの、比に非ず、幸に瀏覽の榮を賜へ。

石川鴻齋先生校訂

五代史

全八冊木版
和裝頗美本
正價一圓昇錢
郵稅十八錢

錦山矢土勝之先生訓點

廿二史言行略

全六冊木版
和裝頗美本
正價壹圓
郵稅拾四錢

大槻東陽先生校訂

春秋左氏傳校本

全部十五冊
木版刷唐裝
印刷頗鮮明
紙質精良

正價 大本金壹圓五十錢 中本金壹圓卅五錢 通運料各二十錢

古の良史をいふもの必ず左國史漢を稱す先秦の名文を擧るもの亦必ず先づ指を左氏に屬す、而して此書は大槻先生が諸種の善本を集めて校訂し且標註せられたるものなれば左氏の眞面目を得たること天下此書の右に出づるものなし。

安藤定格先生纂釋

校訂 史記讀本

正價 金貳圓貳拾錢 通運料 貳拾錢

全部二十册
木版刷唐裝
印刷頗鮮明
紙質精良

司馬遷は東洋屈指の文豪なり、其一生の心力を盡くして一篇史記の中にあり、史記は馬遷が極刑に觸れ、發憤志を立て、筆を執れるもの、支那開國以降漢代に及ぶまで、内外の事歴盡さるるなし、凡そ史傳の評を得しもの東洋に在ては、未だ史記に優さるものなく、特に其文の妙なる、千秋の史筆一として之に及ぶはあらず、雄大渾厚、放縱自在、森嚴精透、斯文の妙を極盡す、故に史記は舊一個の好歴史なるのみならず、實に至妙の名文章なり、文を學ぶもの、心を潜めて之を讀まば、造詣する所特に深からん。

清沈德潛確士評點 樞木寬則先生標註

標註 唐宋八大家文讀本

正價 金壹圓 郵稅 貳拾四錢

全八册銅刻
唐裝頗美
印刷頗鮮明
紙質精良

支那文學の最も燦爛隆盛なるは秦漢以上に在り、其次は唐宋の兩代を以て最も觀るべしとなす蓋し此兩時代の文章は箒法章法等の文法秩然として整ひ規矩法度皆後人の模範となすべからざるは、是に於て明の茅鹿門氏始めて右二代の文章家を撰擇し八大家の名目を立てしより尋て沈德潛等八大家文の撰擇を爲せり中に就て沈德潛の讀本浩澗に流れず簡畧に失はず、唐宋八大家の精醇を撰擇し丁寧に之を批評して古文辭の妙處を解剖し初學作文の模範となす、苟も支那文學の妙處を味ひ唐宋八家の苦心の在る處を知り以て文章を練習せんとするものは此書を座右に備へざるべからざるなり

村瀨 栲先生編纂

續唐宋八大家文讀本

全部十二册
木版刷唐裝
價壹圓卅錢
通運料卅錢

大竹政正先生纂評

增評文章軌範

正價 金七拾五錢 通運料 拾錢

正價全六册
木版刷鮮明
和裝類美本
紙質精良

謝氏の文章軌範久しく世に行はれて、青衿の寶典たり、此書は東西諸名家の評を網羅附記し、殊に校訂頗る精密なれば、謝選の眞面目を見んには、之を措て他に求むべからざるなり。

田島象二先生編選

纂註 日本文章軌範評林

正價 金三拾錢 郵税 金八錢

全三册木版
和裝類美本
印刷鮮明
紙質精良

本書は謝氏の文章軌範に倣ひて、藤原惺窩先生以下長野豊山先生に至る、三十一家の妙文、數百編を選輯したるものにして、江戸時代漢文の粹は、殆んど之に盡せりといふべし。

石川鴻齋先生著

和合璧文章軌範

正價 金七拾錢 郵税 金拾錢

全四册木版
和裝類美本
印刷鮮明
紙質精良

此書は本朝古今諸名家の傑作と唐宋明清等諸大家の佳編と相對時すべき者を編撰し日清諸家の評語批點を附し又字義典故は精密なる註解を加へ名けて合璧文章軌範と云ふ蓋し文の法則と爲すべき者は獨り唐宋のみならず明清及び國朝諸老先生にも亦多し且つ國人文を學ぶ先つ本朝諸名家を以て矩矱と爲し而して唐宋に溯るを得ば文章の奧妙を得る復た敢て難に非るべし凡そ作文捷徑たる此編に如く者は無し苟も文學に志ある諸君は此書に就て和漢の作例を曉り一蹴して古人の域に進み給へ云爾

南摩羽峯先生校閱 安原健堂先生箋註

箋註 正續文章軌範讀本

全二册洋裝
正價參拾錢
郵税拾貳錢

文章軌範註釋の坊間に行はるゝもの更僕猶ほ盡くし難し然れども此書大抵明以來の俗本に據り誤謬缺漏極て多く爲めに謝氏編選の意將に蕪せん今此箋註正續文章軌範讀本は専ら謝氏の原本に據り誤謬を訂し缺を補ひ而して其註釋は繁に流れず略に陥らず通暢明確なり此の如にして庶幾くは青衿の舟筏となり歐蘇の流に航して韓柳の海に浮びて斯文の彼岸に達するを得ん

近藤瓶城先生評註

萬國十八史略評註

全壹冊木版
和裝頗美本
印刷鮮明
紙質精良

正價 金八拾錢 郵稅 貳拾錢

支那歴史の簡にして要を得たるもの曾先之の十八史略に過たるはなし故に元明以來和漢共に取て以て初學史を讀むの階梯に充つ唯その簡略を旨としたるを以て典故熟語等の間往々初學の解し難きもの少なからず此書は一々註解を施し校訂尤も精密なれば世に十八史略の類板多きも更に右に出づる者なし

學橋 大郷穆先生編次

明治日本政記

全十冊木版
和裝頗美本
印刷鮮明
用紙特良

正價 金壹圓貳拾錢 通運料 貳拾八錢

我國古來種々の歴史あり其體裁文章皆一得一失あるを免れず而して其體裁の完全せる其文章の簡雅なる其議論の特絶なるは實に賴山陽の日本政記を以て巨擘となす讀む者をして三千年の興亡治亂一讀の中に歴々として諸を掌に視る如くならしむ是れ此書の時々として後人に傳稱せらるる所以なり故に我國建國以來の沿革の變遷の故を知らんとするものは必ず此書を讀まざるべからず

後藤 點

四書

全十冊和裝
正價 壹圓卅五錢
通運料廿錢

後藤 點

五經

全十冊和裝
正價 壹圓六拾錢
通運料廿錢

四書五經に其點本と稱せられ方今世上に專用せらるる者は後藤點なり抑々後藤點は道春點の難讀を改訂修補し専ら平易通解せしものにして是皆講讀者の熟知する所なり本館に世に其點本を紹介し且つ文字鮮明製本堅固なるを以て講讀者の爲め便益を興ふる所少なからず請ふ陸續愛讀の榮を賜はらんとを

中山利質先生編輯 長山貫先生校訂

南木誌

全五冊木版
和裝頗美本
正價七拾五錢
郵稅拾貳錢

補公一門の忠孝大節千古に赫々たり、此書は正史實錄より野乘私記に至るまで、苟くも楠家に關する遺話逸聞を涉獵網羅したるものなり、一讀當年の史に通ずべく再讀忠孝の大義を發揮すべし、人々必讀の書なり

支那文學全書

全部廿四卷
洋裝頗美本
壹冊紙數
四百五十頁

正價 ●壹冊金廿五錢 ●六冊前金壹圓卅貳錢 ●十二冊金貳圓五拾錢 ●全部廿四冊四圓七拾五錢 ●郵稅一冊六錢

日本は東洋の古國なり其文學の特色特光實に見るべき者少からず本館曩に日本文學全書を發行して一たび國文の精華を煥發せしめしめたり天下靡然相和して斯文の興ると勃然として宇内に超洋の大國たり其文學亦頗る特色を具へ光り燦然として日本文學に絶つ況んや日本の文學も亦その淵源する所を尋ねるときは或は三代周漢の文華の東漸したるものなきに非らず依て日本文學全書に次ぐに支那文學全書を以てして大に東洋の文華を發揮す斯文に志あるの諸君請ふ左の目次を照査して陸續購讀あらんと其講義は總て現今諸大家が得意とせざるい所を分擔せられたれば正確精到なるも敢て喋々を須たざる也

内藤耻叟先生講述

四書講義

全壹冊

本書は大學、中庸、論語、孟子の四部を内藤先生の講義せられたるものなり、其說敢て古註に泥まず新註に偏せず、廣く衆說を咀嚼して斷するに一家の見を以てす、簡にして明、易にして精、漢文學の門牆を窺はんとするもの宜しく此書より入らざるべからず

内藤耻叟先生講述

小學孝經忠經講義

全壹冊

小宮山綏介先生講述

老子講義

全壹冊

老子の虚無列子の冲澹皆前爲を宗とし不言を尙ぶ東洋哲學の一派たる道學家の言實に之より出づ孫子の形勢吳子の應變兵機の妙用全く是に盡く後世の兵を言ふもの皆其範圍を出るものなり本篇は此四子の書を小宮山南梁先生の講義せられたるものなり凡そ此四子は所謂儒家の外に於て全然別に獨立する者即支那文學中に於て一種殊異の生面を開きたるものなり

小宮山綏介先生講述

韓非子講義

全貳冊

韓非子口吃にして其滿腹の經綸を吐くこと能はず。即ち己を得ず三寸の不律に托して。滔々十餘萬言を述ぶ。精氣光怪。嶮新に磨するの寶劍の如し。絶代の雄文を以て絶代の卓論を述ぶ。眞に天下の奇書なり。本館南梁氏の講義を乞ふて發刊す。世人必讀の寶典なり。

大田淳軒先生講述

莊子講義

全貳冊

莊子は字内絶類の奇書なり大は千萬里の鷓鴣を言ひ細は蝸牛頭
の軛圖を我き變け自ら化して翻々の蜘蛛となるを論ず豈至奇
絶妙の文に非ずや而して世の學者或は老を以て或は儒を以て或
は禪を以て其書を解せんこと其領下の珠を獲る能ざる亦宜なる
哉本書は淳軒先生が乃親鑰城晴軒兩先生の説を自家發明の説さ
により直に莊を以て莊を解釋せられたる者なり

石川鴻齋先生講述

●正續文章軌範講義 全貳冊

文選は古びたり爾來文章を集めたるの書汗牛充棟奮ならず雖
も其選の精日月と光を争ふべきもの謝公の軌範に過ぎたるはな
し蓋し選者其人の傑れたるによるか本書は特に文章の深きを以
て名ある鴻齋先生が詳細に文法字句を講説せられたるものなれ
ば錦上花を添ふるの觀ある固より疑を要せざる所なり

城井悔庵先生講述

●荀子講義 全貳冊

諸子百家の中於て荀子諸家の宗たるものは孟子と荀子の二家
のみ孟子は性善を説き荀子は性惡を説く是を相異なりとす
るのみ而も各理義駁正して並ひ行はれて相異らざるものさ
ふべし文章雄大議論超卓にして孟子を讀むもの亦必ず荀子を讀
まざるへからず

内藤耻叟先生講述

●靖獻遺言講義 全壹冊

忠孝節烈の談を聞く者に頑夫も廉に懦夫も志を立つ況んや義士
仁人か究厄百端の際に處して奮然不撓滿腔の熱血溢れて詞藻さ
なりたるもの誰かこれを讀みて感奮興起せざる者あらんや靖獻
遺言の書たる實にその粹を抜くものなり而して此編講義精密從
來諸註解の比に非ず

大田淳軒先生講述

●唐詩選二體詩講義 全壹冊

李季綽の唐詩選は古來我が邦に行はれたる詩集中の尤も廣く且
久しきものなり即ちその我が邦の詩社會を益せしこと殊に大
なりといふべし周端の三昧詩その傳播の廣き李氏の書に譲
らず、而してその選の精に至ては或は優るあるも劣らざるの評
あり、今二書を併せてこれか解釋をなす、其の詩學に益あるや
論を待たざるべし、或は此編以て唐宋二代の醇詩を盡せりさ
いふも可なり

大田淳軒先生講述

●十八史略講義 全貳冊

支那太古以來三皇五帝三代魏國秦漢三國東西晉六朝唐五代宋朝
に至る正史十有八種、歲次四千年、その間の治亂隆替繼々看
べし、但し卷帙浩繁にして備へ難く讀み易からず、元の曾先之
乃ち抄略して十八史略を作る簡にして洩らさず、本館大田先生
に請ふて講義を作り、活刷して二卷となす、其の眞價の如き敢
て喋々の言を費さず、蓋し世自ら定論あればなり

内藤耻叟先生講述

●近思錄講義 附 別錄 全壹冊

瀟洛の六君子、道學の五先生、天下誰かその雷名を耳にせざる
 二程張朱の純儒、顧徳、天下誰かその鴻業を思慕せざる、我が
 邦寛政の三博士出て、天下靡然宋學に赴く、宋學、近思錄小學
 東萊博議、遂に延て日本學となる、看ふ東洋道徳の本領

平井魯堂先生講述

戰國策講義 全貳冊

三代の文章戰國に到て一大變をなせり、本書は蓋し戰國當時の
 人の手に成るもの、縱橫直毅直、當時の人士に接するの看あり、
 以て于類に列すべく亦又以て史闕を補ふべし但其文辭往々陰晦
 解し難き處あるを以て特に魯堂先生の講義を請ひて發刊せり

内藤耻叟先生講述

墨子文中子講義 全壹冊

墨の儒は愛を唱へ上帝を説き利害を談す、殊に孔子を稱して異
 端さなす處、全然空言等々の諸氏と相反す、文中子は道を説きを仁
 義を説く、純然孔孟派の儒なり、今兩者を合せて一冊となす、
 蓋し支那古文學中の奇觀なり。

小宮山綏介先生講述

詩經講義 全壹冊

詩を學ばずんば言ふ勿れ詩を學ばずんば動く勿れ、是れ孔子が
 鯉意を誡むるの言に非らずや、支那文學の粹粹醞醞は實に詩三
 百篇を措て他に求むべからざるなり、孔門の家庭之を教ふるを
 以て先とし、戰國の會同亦之を唱へて以て禮祖の間に折衝す、
 以て言動の準繩に充つる亦宜ならずや、支那文學の滋味を知ら
 んと欲せば、本書若くものはあらざるなり。

城井悔庵先生講述

史記列傳講義 全參冊

薛同馬遷の史記、實に一部の史國史なり、滿腔の熱血實に此
 の數百篇に濺けり、其文章は天馬の空に翔けるか如く、大河の
 萬里の嶺より大洋に向て奔注するか如く、觀るもの眼眩し、瞻
 悸す、千古の奇觀、宇宙の大快文字さへべし、而して此書は
 悔庵城井先生が多年咀嚼の餘に成るもの、固より尋常一般の講
 義と同じからず

菅相公編輯

博賢古言 全五冊唐裝

此書は菅丞相が自ら輯めて、延喜帝に上りたまへるものと傳ふ、
 廣く經史諸子の中より金玉の格言を抜きて部門を立て彙集せる
 書なり、以て修身の模範となすべく又以て作文の材料に供すへ

明歸震川先生編次 去戸逸郎先生訓點

唐宋四大家文選 全五冊唐裝

歸震川は朱明一代の文豪なり、韓柳歐蘇四大家の集中より傑出
 の作を擇りて章法段落を正し、圈點を加へ批評を附して此の書
 を成す、漢文の真味を味はんとするもの一讀せざるべからざる
 書なり

